



1966年5月20日発行（毎月1日・20日発行）第12巻第3号
国誌42号・12月18日第三種郵便物認可

聖徒の道 3

VOL. 13 No. 3



靈感あるメッセージ

12使徒評議員会々員 ハロルド B. リー

今日 日しばしば人々は、主が直接、その声を以て人に語りかけ、その心にささやきかけられるという霊的なことがらからすっかり離れて生活しております。権能を持った僕たちを通じすなわち彼らが聖霊に感じて語る時は主御自身が語っておられると同様なのでありますが、今日の人々はちょうどエルサレムで人々がそうであったと同様に、ただ騒音だけしか聞いていないのであります。また主の心が予言者である指導者を通じて語られているのに、その靈感された英知も、奥深い確信も受けないのであります。すべての人が知らねばならないように昔の予言者たちは祈りによって、いかに主と交通するか、語り合うか、そして主御自身の方法による回答を受けるかを学んでおりました。主がその弟子たちに語られたように、神とそのつかわされたイエス・キリストを知ること（ヨハネ 17：3）がこれら栄光に輝くお方の御前に、永遠の生命に導かれる確実な道程の始まりなのであります。

も く じ

予言者のことば	1
記念すべき大会	2
祈りの力（大会説教）	4
管理監督会のページ	8
若い人のページ	10
扶助協会	13
日曜学校	16
世界の料理	19
系 図	20
主の御国におけるしもべたち	22
伝道部長会メッセージ	35
ローカルニュース	36

子 供 の ペ ー ジ

こうしじまのしまうま	1
クレイジィサーズデー	5

今 月 の 表 紙

末日聖徒イエス・キリスト教会本部ビル。

□ 特 集 記 事

われわれは今月号に新しい使徒と、教会の大祝福師と12使徒評議員会補助、七十人最高評議員会、管理監督会の写真と短い伝記を特集することにした。これら兄弟たちすべての新しい写真はこのために撮られた。伝記もインプルーヴメント、エラ誌のスタッフにより書かれたものである。



〈予言者のことば〉

真 の 感 謝

大 管 長 デビッド O. マッケイ

健康な人も病める人も、すべての人々が感謝できるいくつかのこと
がらについて考えてみましょう。人生における真実とは、結局、よ
ろこびと幸福をもたらすことがらです。あまりにも多くの人々はこ
れらの真実に感謝することを忘れていました。

私 たちが感謝しなければならないひとつの偉大な真実は、生命
そのものです。生命は多くの人にとって不可解です。でもす
べての人々はそれに感謝すべきであります。生命は神が人間に与え
られた最大のおくりものです。生命に感謝していない人はほど貧しく
不具な人はいません。

次に感謝しなければならない偉大なこと、それは神が与えておら
れる自由のはたらきです。国の基本法によって保証されている自由
です。

私 は、教会の会員やその他多くの人々が、物質的なものだけで
は幸福でないことをさとり、それよりもっと価値あること
に感謝していらつしやることを知ってうれしく思います。私は友人
とともにこれらの最も価値あるものに与つていることに幸福を感じ
ております。以下の少しのことをあげても私は心より感謝せざるを
得ないのであります。

すなわち

- 第一に 高貴な血筋と立派な名前
- 第二に 至高者とイエス・キリストの神性に対する確固とした信
仰
- 第三に 自然界にあらわれている神のおくりものを享受する能力
や機会に恵まれていること
- 第四に 愛する者や信頼できる友人のいる愛のこまやかな家族関
係
- 第五に 末日聖徒イエス・キリスト教会で奉仕をする機会がある
こと

とりわけ 慈悲深い御父が、御自身を心より求めるすべての人々
に助けとなる導きをお与え下さるという知識。

教会で奉仕する機会があることにいつも感謝をあらわしましょ
う。自己にではなく隣り人に対する奉仕の機会に。もしあなたが幸
福なら隣り人をも幸福にしてください。これはキリストの根本的な教え
であります。教会はどんな人でも何かの奉仕が出来るように組織さ
れています。「わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとり
にしたのは、すなわち、わたしにしたのである」(マタイ 25:40)
ということを忘れないようにしましょう。

心 からの感謝を行いにあらわすことは、ただありがたいと思う
ことよりも深いものであります。感謝はありがたいと思うこ
とに始まり、その表現によって完成します。ありがたいと思うこ
とはただことばによって表わせますが、その気持は行いによって表わ
します。さてここで収穫とか利益というような一時的なものではな
い祝福に感謝する、私たちの態度について考えてみましょう。もし
私たちの投資が利潤を生んだことや、みのりにだけ感謝したり、税
金を払える充分な収入のみに感謝するというのであれば、感謝は、
まったく利己的なものになってしまうでしょう。

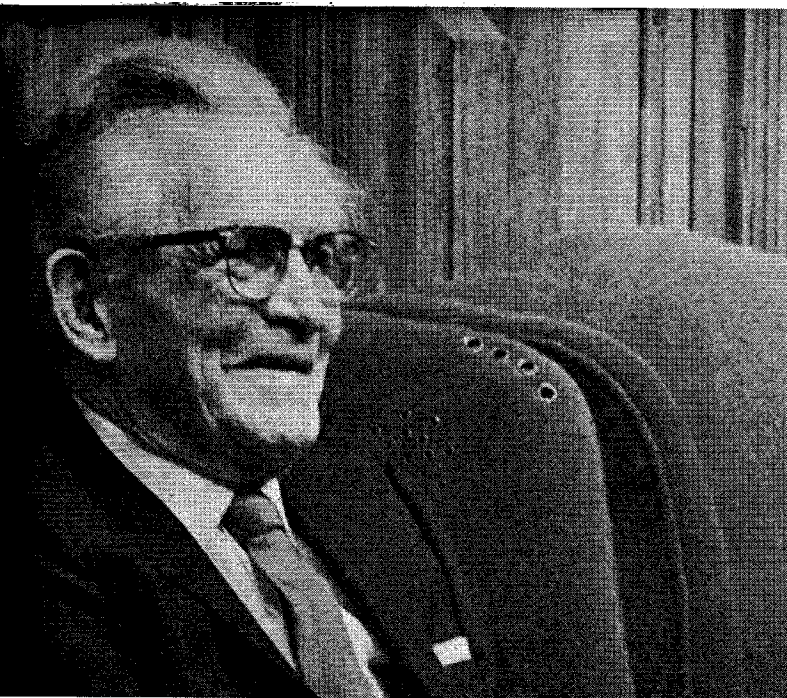
うまく行くことがらはいろいろあります。家族みんなが健康であ
ること、祝福に満ちて繁栄していること、お祝いの食卓がにぎわっ
ていること、貯蔵倉庫に食糧があること、あなたはこのようなこと
で、感謝しなければならないと思うかも知れません。しかしこのよ
うな感謝は利己的なものでしかありません。それは環境に基礎をお
く感謝であります。晴れ渡った空は心を活気づけ、おだやかな海上
の旅は、心を洗いますが、いったん光と影とが逆になるとすっかり
変わってしまうように気まぐれなもの、それがこの種の感謝です。

その人の感謝が安楽や繁栄だけによるとしたら、逆境の時にはた
してよろこびを見い出すことが出来るでしょうか。

過去の記録には重々しい一側面があるものです。辛苦と失敗、絶
望と死別、悲嘆にくれることがらがあるものです。こういうことに
感謝する理由は見いだせるでしょうか。からっぽの貯蔵庫、何も並
んでいない食卓、ひとり置き去りにされた家庭、寒々とした椅子や
埋葬地の墓標に対して感謝する余地はないものでしょうか。

これが実は多くの真摯な心をもつ人々のつまずきとなる点であ
ります。私たちは、逆境のきびしい寒さの中で、その感謝がほんとう
のものがどうかかわかるのであります。それは、肉体や外形の粹を
はるかにこえて、神御自身に対して感謝を抱いているかどうかの試
練であって環境には全く関係のないことであります。悲しみにあっ
ても、よろこびにあっても、真の感謝は人生の表面にあらわれない
ところにあり、神に対してまことに表わされるものなのであります。

繁栄を考えることをかたわらにおいて、富める者も貧しい者も、



記念すべき大会

ヘンリー A. スミス

チャーチニュース編集長

教会の歴史の中で最も記念すべき大会のひとつの幕が切
って落とされ、全世界の末日聖徒の目は、靈感溢れる
メッセージや、出席した聖徒の役員選出などに向けられた。

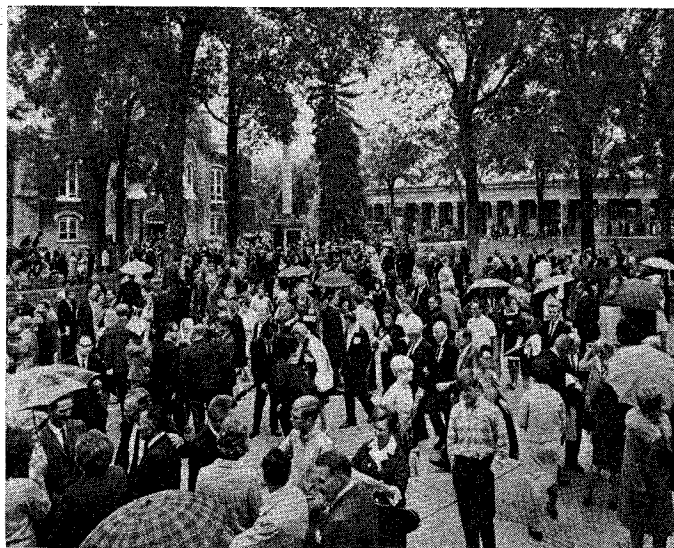
第 137 回一般大会は金曜日の朝の大管長デビッド・O・マ
ッケイの団結の重要性を強調する開会あいさつで始ま
った。愛する大管長は最初の会に出席したが、医師の忠告も
あり他の集会は家庭にあって、カラーテレビによりその模様
をつぶさに見守った。

デビット・O・マッケイ大管長は、子息ロバート・R・マ
ッケイが代読した神権会と日曜日午後の閉会メッセージを加
えて三つのメッセージを話された。

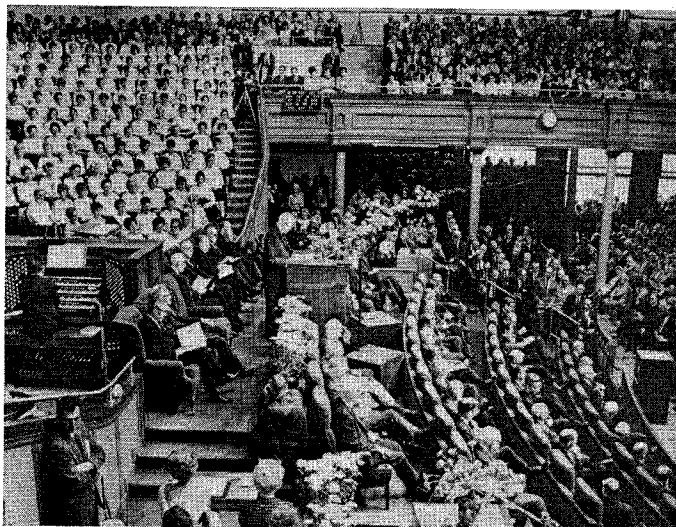
幾 人かの演説者は教会の世界的な性格に触れたが、金曜
日午後の大会において十二使徒評議員会地区別担当責
任者が支持されたことでその伸張ぶりを目のあたりに見る思
いがした。

同 時に、大管長会や教会幹部が支持され、1958年以来十
二使徒評議員会補助であったアルビン・R・ダイヤー
長老が十二使徒評議員の一人として支持された。十二使徒評
議員会補助は指名されなかった。

ダ イヤー長老の聖任については、かつて三たび、使徒が
十二使徒評議員会の会員と称することなく聖任されて
いると同様の例である。ブリガム・ヤング（二代目）は1864
年に使徒に聖任されたが、1868年まで十二使徒評議員会の会
員ではなかった。ジョセフ・F・スミスは1866年に召され、
翌年十二使徒評議員会の一員となっている。またシルベスタ
ー・Q・キャンノンは1938年4月に使徒となったが、評議員会
の一員として支持されたのは1939年の10月のことである。新
たに十二使徒評議員の下で働く69名の地区別担当責任者の写
真と簡単な伝記、責任地区の名称とその地区内のステーキ部
はインプルーヴメントエラの一月号30ページから37ページに
紹介されている。



1967年10月大会タバナクル前広場



タバナクル・ホール

二 新たに任命された69名は一地区に平均4ステーク部を当てていた以前と違って、もっと細分化された109地区で働くよう指示される。

69名の新しい責任者の名前が発表される前、ヒュー・B・ブラウン副管長は大管長会からの次のようなメッセージを読み上げた。

教会員のみなさんへ

「あなた方の多くは1941年を想起するでしょう。あの時、急激に成長する教会の仕事のために十二使徒会と大管長会に付随して働く兄弟たちが必要でありました。そのために1941年4月の一般大会において、十二使徒評議員会が支持されました。それはまさに主の御業を遂行する必要性が増大し、しかもそれは時々刻々高まっていたからでありました。以来教会がもつ世界的使命はかつてない程に増大し、大管長会と十二使徒評議員会は、指導及び指示監督するためのより一層の備えが必要であると感じるに至りました。従って現在提案しているものは、十二使徒評議員会地区別担当責任者の召しであります。各人は時々刻々進歩を遂げるステーク部や、地区群における教育集会を指揮し、相談を受ける仕事をするよう責任を持つのであります。十二使徒評議員会地区別担当責任者は『管理監督会』の如きものではありませんが、状況に応じて多少の時間を、必要な期間だけ専任となって奉仕し、ステーク部長の行うような、仕事を行います°」

詳細はこの計画が大管長会と十二使徒評議員会の指導の下で進められるとき明らかにされます。

大管長会の5名全員がこの声明に署名をした。すなわち、デビッド・O・マッケイ、ヒュー・B・ブラウン、N・エルドン・ターナー、ジョセフ・フィールドینگ・スミス、ソープ・B・アイザックソンである。

十二使徒評議員会地区別担当責任者は担当地区を割り当てられ、433ステーク部長が出席したアセンブリホールでの金曜日の特別集会において、その責任についての指導を受けた。地区担当者は、あらかじめ大管長会と十二使徒評議員会の指導の下で、二日間の特別セミナーでトレーニングを受けていた。十二使徒評議員及び教会相互関係調整評議会議長であるハロルド・B・リー長老により神権会一般大会においてこの新しい管理計画の説明や翌年のステーク部大会のための指示が与えられた。

一長老は、この地区別担当責任者をふくむ新しい管理計画は1968年1月1日から完全に行われると説明した。というのは1967年のステーク部大会や地区集会の残りの部分は4つの神権委員会——伝道、ホームティーチング、福祉、系図——の委員によって引きつずき行なわれ、1月1日に、これらの委員会は解散され、会員は大管長会から名誉ある解任を受けるでしょう。

一長老はその神権大会での演説で、1968年1月からステーク部大会でステーク部全員が出席すべき会は日曜午前の一般大会だけとなり選ばれた指導者のためには、土曜日の午後と夕刻の会が設けられるであろうと述べた。

けてリー長老は、次のように説明した。

続

「教会幹部は四半期のステーク部大会のうち2回出席するよう割当てられ、教会幹部が出席しているときは彼らが管理し監督します。もちろんのことですが、教会幹部が欠席の場合は、ステーク部長が大会のスケジュールに従ってこれを管理します。」

一長老は又補助組織中央管理役員は1月1日以降はステーク部大会には訪問しないが、地区別大会には訪問を続けると説明している。又付け加えて、「大会の午後の部は、教会幹部によって新しく召された監督会や他のステーク部指導者のための大切な訓練、指導養成のために使われ、四半期毎のステーク部大会が効果的に開かれるでしょう」と説明した。

「ワード部聖餐会はステーク部大会のある日曜日に各ステーク部内のすべてのワード部において午後遅く夕刻に開かれます」とリー長老は述べた。

四

つの神権プログラムすなわち伝道、系図、ホームティーチング、福祉プログラムは毎年二度各地区で地区集会を持つようになると説明された。新しく任命されたこの十二使徒評議員会地区別担当責任者は地区別集会を管理しその計画遂行に責任を持つ。

ス

ステーク部大会での指導者養成についてリー長老は、「ステーク部四半期大会土曜日の夜は手引によつて、神権の4つのプログラムや全教会指導者が教える原則及び技術の勉強にあてられます」と述べた。また以上述べた指導者養成はステーク部神権指導者会で行われる場合がある。我々はステーク部長が監督やステーク部、ワード部の神権指導者ならびに補助組織指導者すべてのために、同様の主旨で指導者セミナーを発展させて行くように希望する。



祈りの力

N. エルドン・ターナー

第二副管長

ソルトレークタバナクルで開かれた
第137回定例一般大会における話

マ ツケイ大管長ならびに兄弟姉妹のみなさま、今日こうして歴史的なタバナクルに集うことができて、私は心よりうれしく思っております。美しいテンプルスクウェアのこのタバナクルに過去百年余りの間多くの教会員が私たちと同様こうして集い、主のみたまを心に受け、知恵ある言葉に耳を傾け福音の教義を教えられてまいりました。この機会を得て私たちは信仰を新たにすることができ、証を強くすることもできます。ラジオやテレビができてから教会の指導者たちの偉大なメッセージは世界のいたる所へもたらされております。私たちは今日ラジオに耳を傾けテレビを見ておられる視聴者の方々に心からの歓迎の意を表わします。私たちは今、偉大なタバナクル合唱団の美しい合唱を聴きました。この合唱団は1847年に組織されリチャード・L・エヴァンズの解説とともに1929年以来何百万の人々に聞かれてきました。ひと月程前、私は旅行をいたしました。そのとき、カナダの博覧会、ニューヨーク、ミシガン、ネブラスカ、オクラホマ、マサチューセッツやロードアイランドにおいてその荘重なコンサートを楽しむ無数の人々がいました。

大 管長会やここに集まっておられる人々や教会のすべての会員を代表致しまして、私はアイザック・M・スチュワート合唱団長に、指揮者リチャード・P・コンデイおよびジェイ・ウエルチに、オルガニストのアレキサンダー・シュライナー、ロバート・カイディック、ロイ・ダーリイに深甚の謝意を表明したいと思います。また合唱団の献身的な団員たちや素晴らしい業績に献身しておられる関係者の皆様にも私たちはそのような謝意を抱いているということを申しあげます。主が彼らに今後とも成功を祝福なさいますように。予言者やみたまあふれる指導者たちの下で開かれる多くの大会を深く考えますと、彼らすべてが神のしもべたちであり、彼らの多くが真に偉大な人々であり、この責任を受けるにあたってひじょうに謙遜であることをはっきり知ることができます。私は心から祈り求めます。私があなた方の信仰や祈りに関心をもち、主のみたまが私がこうして立っている時に豊かにありますように。また私のお話し申し上げることが主のみたまに見守られますように。そしてここに集った方々やテレビやラジオで聴いている人々の助けとなりますように。私は心より主のみたまと祝福があなた方にあって求める正しいことがあなた方に与えられますようにお祈り致します。私は祈りに対して大きな信仰を持っております。祈りによって想像以上に多くのことが実現されるということを信じております。私は祈りについての話を選びましたが、このことにより、祈りの重要性について皆様が理解して下さるよう主の助けを祈り求めています。考えてみますと、私たちすべてが、感謝やその他の祈りの機会と大きな特権を持つことはなんとすばらしいことでしょうか。私は人生を通じてしばしば私の祈りがこたえられたことを知っております。それ故に私は主を呼び求めることの重要性を感じるものであり、私が今受けてい

る責任に対して主の力と導きがあったこともわかっておりますし、今日この問題について話し合いたいと願った理由もこのためであります。私は神が私たちの霊の父であり、神が実に生き給うことをさらに皆さまが確信なさるように祈ります。主は言われました「求めよ、そうすれば与えられるであろう。捜せ、そうすれば、見い出さるであろう。門をたたけ、そうすればあけてもらえるであろう。すべて求める者は得、捜す者は見い出し、門をたたく者はあけてもらえるからである。」(マタイ 7:7-8)

私 がしばしば不思議に思うのは、私たちが真に祈りの力を知っているのだろうか、また謙遜な祈りで主なる神を求めるとき偉大な祝福があることを、どのように感謝しているのだろうかということです。神は、私たちに関心を向けておられ、私たちが成功するのを願っておられることを本当に理解しているのでしょうか。リチャード・L・エヴァンズは、次のように述べております。

「天にいます父なる神は、私たちに敗北を宣言しようとしている審判員ではない。神は私たちを出し抜こうとしている競争者でもない。我々に害を被らせようとしている告発者でもない。神は我々の幸福と永遠の進歩を望んでおられる愛する父であり、そして、もし忠実と謙遜と信仰と忍耐を持って生きる私たちに、いつも手をのべて助けを与える機会をまっておられる御方なのである」と。

効 果的に祈り、またその祈りが聞き届けられたと感ずるためには、聞くことも答えることもできる神にあなたが祈っているのであるということ为先ず信じなければなりません。神は、息子たちや娘たちに関心をもち、進歩するように気をつけておられます。最初に主に祈った人の記録はモーセによって書かれております。

「アダムとその妻イヴ主の御名を呼びたるに、エデンの園を指して行く途のかなたより声聞えて彼に語りたまえるが、その御顔は見えざりき。そは彼ら主の居りたもう所より締め出されたればなり。アダムとその妻イヴとは神を呼ぶことを止めざりき」

(モーセの書 5:4, 16)

後 世に影響を及ぼすような偉大な人々は、常に神聖な導きを祈り求めています。この偉大な国家においても祈りは重要な意味をもっていました。祈りによってこの国は建設されたからであります。私たちは昨年5月に、ストローム・サーモンド上院議員が述べたことばを思い出します。「1620年11月に書かれたメイフラワー号盟約は祈りによってその起草文が始められています。「神の御名によりかく述べんと欲す。我らは神の栄光のために神の御前とお互いの面前で厳粛に、この誓約書を以て我々自身が一つの市民政体に団結することを誓う。」

二 のように私たちの国家は祈りによって創立されたのです。バリー・フォージでの厳しい冬に、ジョージ・ワシントンの膝まついて祈った姿を私たちは決して忘れてはなりません。1787年6月に、合衆国憲法会議がなんらの一致を見ることもなしに何週間も開かれていたとき、ベンジャミン・フランクリンは、さっと立ち上って、ジョージ・ワシントンに次のように述べました。

「閣下、私たちは4~5週間も互いに道理を尽して話しあってきましたが得たものは微々たる進展でしかありません。遺憾ながら、そのことは人間の理解力の不足を証明しております。私たちはかつてあった政体や近代諸国家をも観察しましたが、どの憲法も私たちの環境に適しません。なぜでありましょうか、大統領閣下？ 私たちは、理解力をまして下さる天父なる神の御前に謙遜に頼るということを忘れていたのではないのでしょうか。英帝国との戦い

の始めに、私たちは危険に直面しておりました。そのとき聖なる加護がありますようにと毎日祈りました。大統領、私たちの祈りは、聞き届けられ、応えられたのであります。従って私は、この事態が変化するように切望致します。私たちのこの絶望的な状態に天よりのお助けと祝福があるように祈ることによって、この事態を開いて行けるはずでありますから、この仕事を押し進める前に毎朝祈ることは必要なことだと思います」

そのことはなされ、今や私たちは祈りに対する答えを得、彼らの働らきの結果をよこんでおります。祈りは決してこの偉大な国においてないがしろにされてはいけません。絶えず主に、導きを求めたリンカーンはこのように述べました。

「治め給う神の力に頼って、謙遜な悲しみの念を以てその罪を告白する国民、神を主とたてるこのような国民だけが祝福されるという崇高な真理を認めることは国民のまた同様に人々の義務であります。ドワイト・D・アイゼンハワー大統領は、就任式の際に主に嘆願致しました。

「私どもに、悪を免れるための明らかな光を認識する力を与え給え。私どものすべての働きと行いが、その光の中にあり、この国の法律によって守られ、みとめられますように。かくして、すべての人々が、その属する国家の善のために働らくことができ、かつあなたの栄光のために働くことができますように。アーメン」電報の発明者であるサムエル・B・モールスは、迷う時にいつもひざまづいて光と理解力を得るように祈ったということを述べております。私たちは、心からの素朴な祈りを、アストロノート・ゴードン・クーパーが地球を一めぐりしたとき祈った記録によって知ることができます。

「天父よ。どうも有難うございました。私が地球を一めぐりできたことに對し感謝申し上げます。このような特権を得ましたことを感謝申し上げます。このようなすばらしいところに存在しておりますことに感謝致します。目を見張るような美しいあなたの創造を目のあたりに見られる場所に私がいることを心より感謝申し上げます。」

私はサーモンド上院議員が訴えた次のような呼びかけに同感であります。「もっと祈れ、そして我が国の宗教的遺産を査べよ。そして神の祝福を求めることの有益さを見よ。祈りは有限者が無限なお方に通じる唯一の道である。そこにおいて目で見える者は、目に見えざることに触れることができるのである。あなた方は、容易にこれを理解できる。もしあなた方が国家の歴史を調べてみるならば、神への祈りや神と親しく交わることが国家の唯一の礎石であるということにすぐ気が付くだろう。もし今それを捨てようとするなら、かつて他の国家がそうしたと同じようにあなた方はこの国家の最大の宝を放棄することになるのである。」

アダムから現在に至るすべての予言者たちは、絶えず導きを受けるように祈りました。救い主でさえ永遠の父なる神に絶えず祈りを捧げました。私たちはこのような救い主を、以下の聖句から知ることができます。「このころ、イエスは祈るために山へ行き、夜を徹して神に祈られた。」(ルカ 6:12) 主は私たちすべてに祈るようさとしておられ、ヤコブを通じて次のように約束しておられます。

あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は、とかめもせず惜しみなくすべての人に与える神に、願い求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう。ただ疑わないで、信仰をもって願い求めなさい。疑う人は、風の吹くままに揺れ動く海の波

に似ている。」(ヤコブ書 1:5~6)

この約束は私たちの一人一人に与えられたものです。身分の下、貧富に関係なく、普遍的なものであり、私にもあなたにも、私たちの隣人にもかわりのある約束であります。主は私たちに神を信じ、神に対する信仰を持たねばならないと教えておられます。私たちは、主が誠命を守りつつ祈りによって主に心を向ける子らを常に助けようと用意しておられるということを知るべきであります。事実、主は次のように述べておられます。

「汝らわが言うところを行わば、主なるわれこれに対して責任あり。されど汝らわが言うところを行わずば汝ら何ら約束を受けない。」(教義と聖約 82:10)

主は私たちに、謙遜でなければならぬと戒め、古代の予言者たちが言った人間のようであってはならぬと警告しておられます。「見物人は自ら誇って尊大であるが、そのつまづく石が大きいために、すでにつまづいて倒れている。従ってかれらはもろもろの教会を立てるけれども、神の能力と奇蹟とをすてて自分の知恵と学問とで教えを宣べ、そして利益を得たり貧しい者をしいたげようとする。」(ニーファイ第二書 26:20)

パウロは、世の誇り高ぶる者に関して次のように述べている。

「生まれながらの人は、神の御霊の賜物を受けられない。それは彼には愚かなものだからである。また、御霊によって判断されるべきであるから、彼はそれを理解することができない。」

(コリント人への第1の手紙 2:14)

「いったい、人間の思ひは、その内にある人間の霊以外に、だれが知っていようか。それと同じように神の思ひも、神の御霊以外には知るものはない。」(コリント人への第1の手紙 2:11) 偉大な学者でもあった、故ルーベン・クラーク副管長は、

「もしも人が神について学び、導きを受けたいのなら、心から自分の知識や実践に対する誇りを捨てねばならない。なぜそうしなければならないのだろうか。なぜならどんなに賢い人の知識も、宇宙の真理と比べたら、大海の一滴に過ぎないからである。人は、謙虚にイエスを救い主であると告白しなければならない。なぜなら我々が救われるべき名前は、天下にキリスト以外この天の下与えられてはいないからである」(「不死不滅の生命への道」4頁)

私たちは神が創造主であることを認める準備をしなくてはなりません。神は、独り子イエス・キリストを通してまた予言者を通じて、簡単なことばで神と人との関係、前世での存在、なぜこの世にいるのか、死後の存在、そして私たちがここで行うことは次の世の私たちを位置づけるということを語っておられます。

私たちは人の教えにまどわされてはいけません。すべての科学や哲学の研究も、「人が何であり、なぜここに居るのか」という質問に答えてはくれません。しかしこれは、イエス・キリストの福音によってはっきりと簡単に答えられております。すなわち、

「もし知恵に不足している者があれば、神に願い求めるがよい」と。私たちはこのように準備し、次の聖句で救い主が言われているような者にならないようにいたしましょう。偽善者たちよ、イザヤがあなたがたについて、こういう適切な予言をしている。この民は口先ではわたしを敬うが、その心はわたしたちから遠く離れている。人間のいましめを教えとして教え、無意味にわたしを拝んでいる。」

(マタイ 15:7~9)

これはまことに重要なことであります。主は、私たちが謙遜でありイエス・キリストの福音を受け入れ、いましめを守らなければなら

らないと強調しておられます。もし私たちが祈りを聞いていただきそしてそれに答えてもらいたいと願うなら、私たちはすべて真にパウロがローマ人に語ったように言う備えをすべきであります。わたしは福音を恥としない。それはユダヤ人をはじめ、ギリシヤ人にもすべて信じる者に救いを得させる神の力である。」

(ローマ人への手紙 1:16)

な ぜある人々が神が祈りを聞くことも答えることもおできになることを信じることができないかについて理解することは難しいことです。宇宙飛行士は、地球を離れて一時間に何千マイルも旅行ができますが、基地からいろいろと導きを受けています。彼らは絶えず基地と連絡を保ち指示を受け、彼らの行動の導きを受けて地上に安全に戻って来ます。

私 たちが神に対して誠実であるときに、神が祈りを聞きこたえてくださる力があるということをどうして疑うことができましょうか？ またサーヴェイヤー3号が、地球から月に送られて、こんな器械でさえ地球にいる人間に導かれるということを疑わないのにどうして私たちが神に導かれれないと言えましょうか？ 器械は掘れと言われれば掘り、それを止めよと言われればやめ、報告せよと命じられれば報告し、写真を送れと言えれば送り、再び掘れと言えれば掘るなど、指示通りに動いています。

私 たちは、宇宙飛行士やサーヴェイヤーと同じに、この地で過ごすよう神から送られて来たのです。神は私たちに成功を望んでおられます。祈りに答えようと身を乗り出しておられます。私たちが、祈りによって神と接し、命じられるままに行なうなら、神のみもとに安全に帰れることを約束しておられます。

し かしながら、私たちは祈るとき、主の召しにこたえ、主を認めお仕えする準備をしているのでしょうか。お互いに許し合うように主が望んでおられることに対してどうこたえているのでしょうか。「汝らもし人の罪を赦さば、汝らの天の御父もまた汝らの罪を赦したもうべし。されど、汝らもし人の罪を赦さずば、汝らの父もまた汝らの罪を赦したまわじ。」(ニーフエイ第三書 13:14-15)

私 たちはしばしばどまって、自分のおかれた状態を分析した方がよいかも知れません。私たちは、困っているときの神頼みではないのでしょうか。「これを祝福してください。あれを祝福して下さい。これを下さい、あれを下さい。またこうして下さい、ああして下さい」と主に注文してはいないのでしょうか。

私 たちが正義へと導かれて、最もよいものを祝福されるよう祈っているのでしょうか。天父なる神の御旨を行う望みがあるよう、力があるよう、かつ決意があるよう祈り、常にいましめを守る準備をしているのでしょうか。

人 はいろいろな理由のために祈ります。恐れのためにひざまずきそのためにのみ祈ります。あるいは行き場所のない行きづまった状態から逃れるために祈ります。国家は、悲劇に遭遇したとき、かんばつとき、疫病のとき、飢饉のとき、戦争のとき、それらから免かれ、導きがあるよう祈ります。ある人は病いがいやされるよう、ある人は強くなるように祈ります。あるいは家族に主をお招きするために、愛する人のために、正しい努力のために祈ります。これらは、主の目にはすべて善しとされると私は考えます。

しかしながら、私たちの「受ける」多くの祝福を天父に感謝することが、最も重要なことなのです。ある日、私の家族の祈りで、小さな娘がこう言ったとき深く心を動かされました。

「お父さん、私、もっとたくさん祝福はいらないと思うわ。主

は私たちに、とってもよくして下さいます。だから私たちが受ける祝福にふさわしいものであるよう助けてくださいとお祈りすべきだわ」と。

それ以来、私たちは天父に感謝の念をもっと表わすようになり、主がお与え下さっているものを受けるに価値ある者となるよう導きを願っております。多くの祝福に感謝を表わすとき、私たちは主が私たちのためにしてくださる、すべてのことに関心を払うようになり、もっと深く感謝するようになります。私たちが相互に行なっていることに対して、互いに感謝の念を表わすことがどんなに意味があるかは、皆さんがよく知っておられます。私たちの先祖は感謝のために特別な一日を定めました。その日を忘れている人はいないでしょうか。私たちはあのルカによる福音書のらい病人のように、おのおのの感謝の念を主に表わさないという罪を犯しているのではないのでしょうか。

「そのうちのひとは、自分がいやされたことを知り、大声で神をほめたたえながら帰ってきて、イエスの足もとにひれ伏して感謝した。これはサマリヤ人であった。イエスは彼にむかって言われた。『きよめられたのは十人ではなかったか。ほかの九人はどこにいるのか。神をほめたたえるために帰ってきたものは、この他国人のほかにいないのか』(ルカ 17:15-18)

暗殺者の中に、友人ブルータスを認めたシーザーについて、マーク・アントニーは次のように述べています。

「これこそは残虐無比のきわみ。あの高貴な御方シーザーが己れを突き刺すブルータスを見たとき、謀叛人の腕よりもより強い忘恩を見たからだ。彼を圧倒し、あれ程に強かった心臓を裂きちぎった忘恩を」は絶えざる祝福を願い求めるとき、あやまちの許しを乞うとき、正義を望み、力を乞うとき、その多くの祝福に対して感謝の気持ちを表わすように主は期待しておられると思います。

私たちが祈るとき、こたえて下さる主のために最善を尽さなければならぬというのは大切なことです。私が幼かったとき、父はこう言いました。

「もしおまえが祈りにこたえてもらいたいと思うなら、足を使い、自分の役割を果たさねばならない」と。

私は、もし私たちがすべて正しい生活をし、神を創造主として認め、誠命を守るように一日の祈りをするを大統領が国民に呼びかけたなら、どんなに効果的だろうかとしばしば考えます。多くの人々は、神に対する信仰を失い、またある人々は祈りに答えて下さる主の力を疑っています。ある人々は、自分自身の知識によって信じ自分たちの力を確信しております。次の聖句を引用しましょう。

「しかし役人たちの中にも、イエスを信じた者が多かったが、パリサイ人ははばかりで、告白はしなかった。会堂から追い出されるのを恐れていたのである。彼らは神のほまれよりも、人のほまれを好んだからである。」(ヨハネ 12:42-43)

アメリカ大陸に関して主が警告されたことに注意しましょう。

「ごらん、この土地はすぐれた土地であるから、この土地を所有する民はこの地の神に仕えさえすれば、奴隷とならず自由を奪われず天下のどのような国からもすべて支配を受けることがない。この地の神とは私たちがすでに記した言葉によって明らかに示されるイエス・キリストである。」(イテル書 2:12)

この主からの警告によって、私たちは次のような約束を受けます。「まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものは、すべて添えて与えられるであろう。」(マタイ 6:33)

私たちは、ヨシュアが次に述べたように、言える勇気と決意を持つべきであります。

「あなたがたの仕える者を、きょう、選びなさい。ただし、わたしとわたしの家とは共に主に仕えます。」(ヨシュア記 24:15)

主 は、両親に子供たちが生ける神の子キリストに信仰をもつよう教えよと言っておられます。また主の御前に真直ぐ歩み、祈ることを子供たちに理解させるよう望んでおられます。生ける神に信仰を持ち祈ることを教えられる子供たちが、主の御前に真直ぐ歩むようになることは疑いありません。

私は、ひそかに主に祈ることを教え、家族の祈りに加わることを教えてくれた両親にことばであらわし得ない感謝をもっております。私の母は、膝の上に私をのせて教えながら創造主である天父に語っていることを感じさせ神が私の行ないや望みや要求に関心をもっておられることも教えてくれました。そして心からの感謝を述べ、罪の赦しを乞い、正義を行う力を与えてくれるように祈ることをも教えられました。生涯を通して、これは私にとって常に偉大な力となってきました。今日私は、かつてした祈りよりももっと真摯に、主が私の活動について導き教えてくださるよう、私が行くことがすべて主に受け入れられるものであるようお祈りします。

私たちが朝晩、家族で膝まづき祈ったときのことをふり返って考えますと、私たち子供にとって、それは、父が主を呼び求め、実際に主に話し、穀物の実りやすすべてのことがらに祝福を求め感謝の念を表わしているように思われました。それは誘惑のある際には力となりました。なぜなら夜主に祈って報告しなければならないことを思い出させたからです。

ど の家庭でも家族の祈りは家族それぞれを親密にし、父と母の間の感情や子供と両親の感情をよいものにします。又子供たち互いの間も同様です。子供たちが、両親の為に祈る時は、両親に対する感謝の念を増し、互いに祈るときはより緊密になり、特に家族の祈りにおいても、ひそかな祈りにおいても、天父に話しているのだということを知ったなら、ますますその意義は深いものとなります。このようなときが、私たちの相違を忘れて、他人のことを思いやり元気に生き、弱点に打ちかつ力を求めるときなのです。天父なる神のみたまに合わせようとする時に私たちはより善良でありましょう。私たちは天父と交わり、御旨を行なう希望を表明しつつ、祝福を祈り求めるものです。主は次のように言われています。

「誘惑に陥りて汝の報いを失わざる様に常に祈れ。終りまで忠実なれ。さらば見よ、われ汝と共に在り。これらの言は、人間の言にあらざしてわれより出でし言なり。すなわち父の御意により、イエス・キリスト汝の贖い主より出でし言なり。」(教義と聖約 31:12~13)

主はまた次のように言っているらしいです。

「だから、互に罪を告白し合い、また、いやされるようにお互いのために祈りなさい。義人の祈は、大いに力があり、効果のあるものである。」(ヤコブ書 5:16) 私はこの質問に答えようとししばしば自問致します。「なぜあの人々は祈ることを拒絶するのか。時間が無いと感じているためだろうか」と。

ある日一人の父親が、問題のある年上の息子のことで、私のところにやって来たことを思い出します。その子はよい子でしたが父親は彼をもてあましていました。私はその父親に家庭で家族の祈りを定期的に行なっているかどうか尋ねました。彼の答えは、「ええと、いつもはやっておりません。ときどきです。忙がしすぎるんです。別々の時間に仕事に出かけてしまうものですから。一緒に祈ることはとても難しいことなのです」

私 は尋ねました。あなたは息子さんが病気で死にそうだとしたら、よくなるように毎朝毎晩祈りませんか」

彼は言いました。

「もちろん祈ります。どうしてです」

死ぬということとは別に、今度はその子が道に迷ったらということで彼に説明しようとした。私はまたともに祈り、いっしょにいるとき、家族は安らぎを感じ、互いに愛をもつようになることを説明しました。次の質問は、「彼らはひとりでやっていける程に、独立心が強く、利口ですか。又神を求めることを恥ずかしいことだと考えていますか。それが弱さのあらわれだと思っていますか。神を信せず、信仰を持ってはいないのですか、多くの祝福を感謝しないのでしょうか」と。祈ることに価値をみとめていない人は自分の弱点をみとめ、遺憾の意を表わし、悔い改め、正義を行うよう約束し、祈って導きを受けるべきです。

方法を知らないために祈らない人がいるのでしょうか。もしそうなら私はおすすめします。ひそかに天父なる神のところへ行きなさい。全心を神に注ぎなさい。いつも祈りなさい。そうすればあなたは安らぎを得、神と交わることによって平安を得るでしょう。あなたがしなければならないことは、自分の感情を表わすことです。それを主が理解なさるからです。主は私たちをいつも御許に来よう招いておられ、私たちの願いを聞くと約束しておられます。古代の予言者、モロナイは、モルモン経について次のように述べています。

「またこの記録を受ける時、それが真実なものかどうかをキリストの御名によって永遠の父なる神に問え。もし誠心誠意でその上キリストを信じながら問うならば、神は聖霊の力によってこの記録が確かなものであることを、あなたたちに示したもうにちがいない。そして聖霊の力によつて一切の事の真実であるかどうかがあるたたちに解る。」(モロナイ書 10:4~5)

も し私たちが悔い改め主のもとへ行くなれば、この約束は私たちすべてに適用できます。主は聞くことがおできになり、祈りに答えてくださることを知ってください。私たちは神の子供であり、主は変わらずに私たちに関心を持って下さることをすべての人々が知るべきです。神は、正しい者の祈りにこたえ、熱心に求める人々に答えを下さるのです。

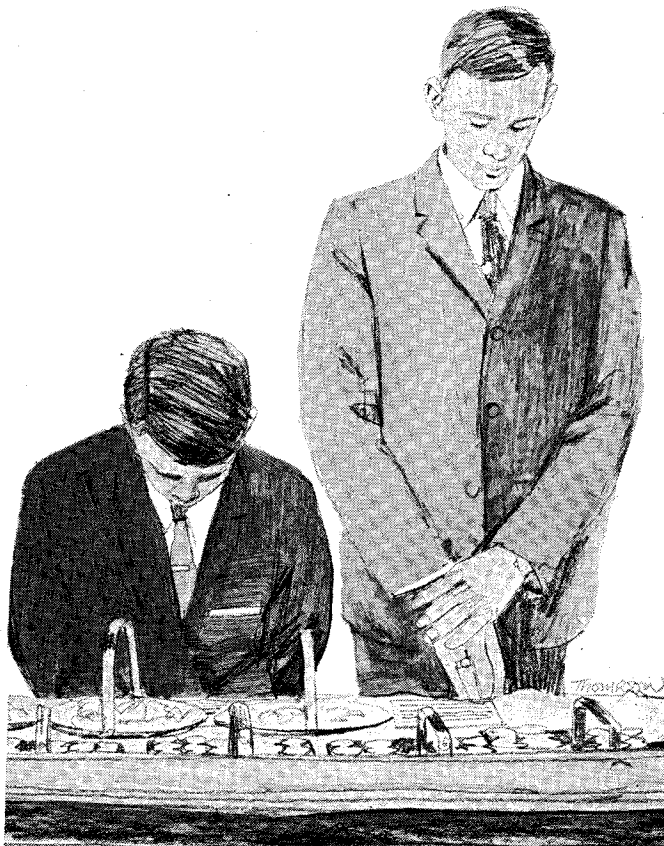
こ れがあなたたちに対する私の証です。私たちが自ら謙遜であり祈りによって主を熱心に探し求めることができますように、主の御前に正しく歩むことができますように、また私たちが不死不滅と永遠の生命へと導かれ歩むことが出来ますように、私は心から謙遜にイエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン。

聖 餐 会

について

管理監督

ジョン H. ヴァンデンバーグ



主 　　が管理された最初の聖餐会を思い起して下さい。この
会の前に、救い主は今やわずか数時間後に激しい苦痛
と犠牲が訪れることを知っておいでになりました。そこで主
は、非常に深く愛しておられる、三年間主の御業のために労
を共にしてくれた人々をみそばにお集めになりました。その
中の一人はすでに主の生命を売り、他の者たちは「今夜あな
たがたは皆わたしにつまずくであろう」（マタイ26：31）と主
が述べられた通りになることをたとえ知っておられても、こ
のおだやかな最後の時を主は彼らと共にすごしたいと思いい
になりました。主がその夜とそれに引続いてなさろうとして
いたことは、彼らにはすぐには理解のできないものでありま
した。けれども主はその犠牲が彼らにどんな影響をおよぼす
か、この地に生まれてきた人々、これから生まれるあらゆる
人々にどんな影響をおよぼすかを知っておられたのです。そ
こで救い主は間もなく起ろうとしている出来事を、厳粛に定
期的に使徒や教会のあらゆる人々に想起させるために初め
て聖餐をしておみせになりました。それはきわめて神聖な儀
式なので主御自身がお定めになり、救い主は最初の聖餐会で
自ら聖餐を準備され祝福されたのであります。

　　タイはこの出来事を次のように記しています。
マ　「イエスはパンを取り、祝福してこれをさき、弟子た
ちに与えて言われた、「とって食べよ、これはわたしの
からだである。また杯を取り、感謝して彼らに与えて言わ
れた、「みな、この杯から飲め。これは罪のゆるしを得させ
るようと、多くの人のために流すわたしの契約の血であ
る。」（マタイ26：26～28）

今　　日この儀式は回復され、救い主は神権保持者にこの神
聖な聖餐（しるし）の祝福を代行する権威をお与えに
なりました。この神権時代において若い人たちは聖餐に関し
て救い主がなさったと同じ働きをしているのであり、神聖な
責任と信任を身に受けているのであります。

こ　　の責任をお持ちの若いかがた、あなたがたは救い主
がなさったと文字通り同じ働きをしているという思い
をもって、聖餐を準備し、執行しパスしておりますか。執事
のかたがた、あなたがたは聖餐会を通して、敬虔さを保ち、

威厳と畏敬の念をもって聖餐をパスしておりますか。教師であるかたがたは会を始めるに先だって、聖餐の準備が充分に、そして敏速になされるように関心を払っておりますか、また祭司であるかたがたは集まったすべての人々に代って、この神聖な聖餐（しるし）の祝福をする時にその厳粛な祈りの中で天父に呼びかけながら、その特別な責任を感じておりますか。

聖 餐会の責任は聖餐台や礼拝堂だけに限られているものではなく生活のあらゆる時に行きとどいていなければなりません。人は聖餐会に参加する価値がなければならぬだけでなく、神権保持者はこの聖なる儀式に参加する以前からこれに価するものでなければなりません。マッケイ大管長は全教会大会で、全神権者に呼びかけ、聖餐に関して次のように述べられました。「私はこの聖なる儀式が、より強い畏敬の念に包まれ、完全な秩序があり、神の宮居に来る方々が、めい想し静かな祈りの念をもって神の恵みに感謝を表わされますように強く望むものであります。聖餐がこの聖なる儀式に出席するに適わしい青少年によつてのみとり行われ、彼らと会衆にその意味が充分に理解され、畏敬の念をもって行われているかに注意を払うのは、あなたがた監督のつとめであります。」

私 たちの予言者のこれらの言葉から、主は聖餐が正しく行われているかを見守っておられ、それを聖なる特権と見ておられることが明らかであります。神権をお持ちの若い人々にはそれぞれこの儀式に参加するに価する生活をする責任があります。監督はこれら若い人たちの価値を毎週判断されて、アロン神権定員会会長会に責任を頼む必要があります。

聖 餐会はすばらしい神聖な儀式であって、単にパンと水を食べ歩いて歩く会ではありません。それは神権の本来の職務をはたす会であり、その意味でそれは重大な責任を想い起させるものであります。旧約聖書にはウジアという人について語られています。ウジアは契約の箱におさめられた聖なる物を指示に従わずに無造作にあつかったために、撃たれて死んだのであります。今日でも神権者が聖餐会の神聖な性格を理解しないでいることはちょうど同じ重大な罪を犯していることとなります。聖餐会の神聖さをよりよく理解するためにその意味をもう少し詳しく調べてみましょう。

先 に述べたようにイエスが初めて聖餐会をしておみせになったすぐ後で、主はゲッセマネの園と呼ばれる小

な木立に行かれて、私たちのために最も大いなる犠牲をお始めになりました。その園で救主は十字架につけられ、墓からよみがえり、すべての人間に復活をもたらし、悔改めとバプテスマを通して罪による霊の死から逃れる道を備えられました。主がなさったことをすべて心に描くことは困難ですが、その大いなる犠牲がなかったなら、人生には希望も目的もないでありましょう。さらにその苦痛と犠牲を理解するために主御自身の言葉を読みましょう。

「見 よ、われは神なるに、人もし悔い改むるならばこの苦しみを受けざらんがために、すべての者に代りてこの苦しみをわが身に受けたり。されど、人もし悔い改めずば誠にわれと同じ苦しみを受けざるべからず。その苦しむたるや、われ神、すなわちすべての中最も大いなる者なりといえども痛苦のために身をふるわせ、あらゆる毛の孔より血を湧かせ、身と霊と両つながら苦しめ、すなわちこの苦きさかずきより吞まずしてしりごみするも可ならんことを欲したり。然はあれども、父なる神は讃むべきかな、さればわれはこの苦しみをなめ、人の子らの為に準備を為し終りたり。」(教義と聖約19:16~19)

私 たちが聖餐をうける時に、主が私たちのためになさってくださったこの偉大な働きをまず第一に心にとめなければなりません。

聖 餐会により教会の会員たちは、自らの生活に注目し、さらによい生活を営むよう決意を新たにするのであります。マッケイ大管長は聖餐を受けることについて次のように言われました。「若し次の日曜日に聖餐を受ける会員一人一人がその儀式で交わされる契約の真意を感じてへりくだり、喜んで御子の御名を受け、真のクリスチャンであることを誇りに思い、家庭にあっても、仕事においても、社会にあっても、常に主を忘れずに主が与えられた誠命を守るならば、この教会はどんなにか強くなることでしょう。またその祝福がどんなにかわかりやすく、聖日に交わす契約の意味がどんなに深くなることでしょう」。

聖 餐をとり行う責任を持っているアロン神権者の若いあなたがた、あなたがたはその意味とその神聖さと、この真に大いなる恵みをもたす聖なる責任について学んで下さいように。



最も素晴らしいもの

ベッキー・スチュワート

あるディナーパーティーで、私は一人の男の方の横にすわりました。私たちはいろいろの話題について非常に楽しく話し合いました。

夕食の終りになって、彼は人生でもっとも素晴らしいものは何かについて話し合いたいと言いました。彼はハイキングやキャンプで家族と共に得た楽しい思い出について話しました。

「ひんやりした夜山の上で、涼しい風をこちよく肌を感じながら、家族と一緒にすんだ輝く星空をながめるなんて最も素晴らしいことですよ。」と彼はいすによりかかって満足気にはほえみながら言いました。

「ねえ、そうだと思いませんか、他にもっと素晴らしいことがあるでしょうか」

私は、「たしかにそうですねけれども私が最も素晴らしいと思っていることをお話することはできますわ」と私は言いました。

「それはお聞きしたいものですね」彼は興味を示して言いました。

これはカリフォルニアのロングビーチに移った直後のことでした。私の夫のチャーリーは海軍士官で、そのときは船に乗っていました。ある朝、買物に行くために、二人の子供に着物を着せていますと、ドアをノックする音がしました。私は、これとってロングビーチには知人もいませんので、急いで行くこともせず赤ん坊に着物を着せていました。私はサリーに靴をはかせるのに手間どっておりました。すると再びノックがきこえました。私は少しいらいらしながら、

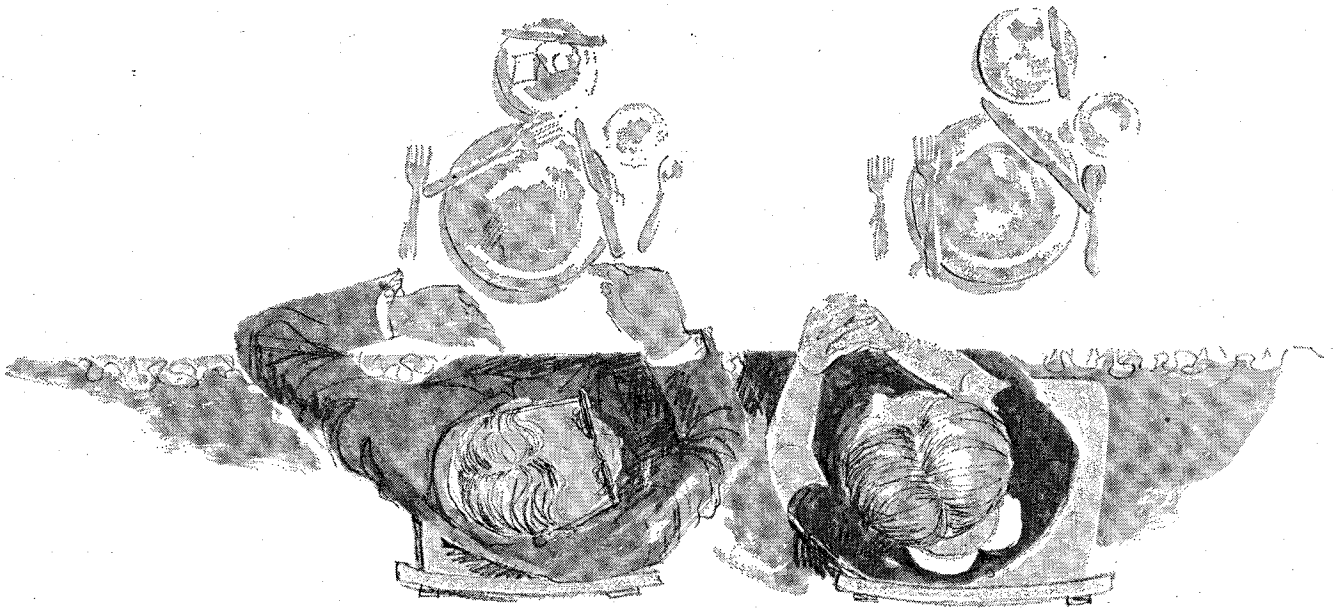
子供に靴をはかせるのをやめてドアのところへ行きました。そこには二人の若い男の人が立っていました。

「はい」と私はそっけない声で答えました。彼らは親し気に挨拶を交わし、モルモン教会について知っているかと尋ねました。私が何も言わずにいますと、もっと知りたいですかと今度は聞いて来ました。

私 がもっと知りたいかですって。モルモン教会のことを考えるのにわずか一分だって今までに費したことはないわ。興味も持っていないものにどうしてもっと知りたいと思うことなんかありますか？ 私はこう言おうとしました。でも何か私をとどめました。

ながら去って行きました。私はほほえまざるを得ませんでした。なぜ彼らはあんなに幸福そうで熱意にあふれているのだろう、あんなに若いのに、と考えました。でももしあの人たちがだって、家庭を持ち、4人の子供がいて、船に乗っている夫がいたらそんなにいつもほほえんではいられないわ。

次 の朝、もう二三分でモルモン教会の若い人が来るはずになっていることに気がつく、すっかりいらいらしてしまっ、ほほえみもふっとんでしまいました。それまですっかり忘れていたのです。ですから彼らもすっかり忘れてくれていたらなあと思いました。子供たちは静かで、よい朝でした。



「ええと、少しだけ知りたいとは思いますがけれど……」

私は気のない返答をしました。

「いつにしましょうか」

若い一人が言いました。

おやおや、すっかりわなにかけられたわ、どうして「ノー」と言わなかったんでしょう。

「そうですね。近いうちに……」

私は投げやりにこう言いました。

「明日はいかがでしょう」

わなだ！私はすっかりわなにかかってしまった。と思いました。そしていつの間にかその時間に同意していたのです。彼らは私の名前を書きとめ、強く私の手を握ると、ほほえみ

ン／トン／

ト

いいえ、彼らは忘れてはいませんでした。にっこりはほえんで、聖典や他のものをもって立っていました。私もついほほえんでしまいました。数分後に、私たちは友だち同志のように話していました。彼らはジョセフ・スミスと初期の教会について話しました。それはみな興味あるお話でした。しかし数分もたつとそれは終わってしまい、若い宣教師たちは道具を片付け、聖書をとじはじめました。

「もう終わりですか」

私はがっかりして聞きました。

「ええ、おしまいです」

一人がほほえみながら言いました。私は本当にがっかりし

ました。この新しい宗教をもっともっと知りたいと思ったからです。

「私たちは、もしあなたが望まれるのであれば、またやって来て他の問題についてお話することもできます」

「できますの」

ああ、なんて素晴らしいことでしょう。「いつですか」

「火曜日はいかがでしょう」

それはいい。今度は忘れないようにしましょう。もう待てないわ。私はそう思いました。

火曜日が来ました。宣教師たちは他の興味あるレッスンをしてくれました。私は、モルモン教が一日や二日で討論し、かたずけてしまうことのできない問題であることを理解し始めておりました。私は今も彼らが私にくださったモルモン経やパンフレットを持っております。私は熱心にパンフレットを読み、モルモン経を読み始めました。

三 番目の討論に入ったとき、私は知恵の言葉を守って生活できるか尋ねられました。私はコーヒーとお茶をやめなくてはならなかったのですが、なかなかその気になれませんでした。宣教師は、一週間だけ先ずやめるようにすすめてくださいました。その間、私は正しいことができるよう天父なる神様にお祈りしました。次の朝、私は台所に行き、いつも飲むコーヒーの代りにミルクを飲みました。私には疑いなく正しいことをしているという気持ちがありました。このようになときに、教会から一人の女性が来て、次の日、彼女と一緒に扶助協会に出席するよう私を招待して下さいました。その日は、新年の親睦会で、屋敷も出され子供の世話もしてくれました。私はその婦人に関心を持ちました。彼女は宣教師のように希望に満ち、魅力的で、にこやかで、誠実そうに見えました。これらモルモンたちに「ノー」と言うのは不可能でした。

私 は扶助協会に行き、そこで見たことに、より強い印象を受けました。このように多くの親し気で愛らしい女性に会ったことはありませんでした。そこには何かがあり、以前感じられなかった平和と落ち着きが私の心にふれました。興奮と満足感の入りまじった気持ちで「これこそ私の属すべきところだわ」と思いました。

宣教師は引続きやってきて、時々レッスンをし、また時々訪問をして私の興味ある数々の質問に答えてくださいました。教会からはまたしばしば例の婦人がやって来て私たちはよいお友だちになりました。私たちは二人共縫い物、料理、手芸な

どが好きで、多くの興味が同じであることがわかりました。

今 私はかつて知ったどんなグループの人々よりも、モルモンを賞讃し、尊敬します。宣教師は、教えてくれたことについて祈るよう私に望みました。私はそうしましたが、始めのうち祈ることは私にとって難かしいことでした。モルモンの人々と楽しく交わっているとき、私は彼らみんなが持っていると思われるあの内面の充足感を得たいと思いその教義を信じたいと思いながらも、だんだん勇気がなくなって行きました。

あ る日私の祈りに対する答えが訪れました。宣教師は、私のためにある事柄について非常に熱心に祈っていました。彼らの真心と誠意は非常に私の心をうち、私は突如として、彼らが語ったすべてのことが真実であることを理解しました。キリストはこの地に教会を回復し、それが今日存在していること、ジョセフ・スミスが神の予言者であったこと、モルモン経が神のみ言葉であること。この知識がもたらすよろこびは大きいので、私は涙の出るようなよろこびを感じました。そして私のかつての自我は、愛とよろこびによって運びさられてしまったように思えました。

末日聖徒イエス・キリスト教会にバプテスマを受けて入ってから数ヶ月たちました。改宗の日に感じた素晴らしいよろこびは、そのままではなく、日に日に増しております。世界は変わったように感じますが、それは最初見ていたときと同じなのかも知れません。周囲の美に目を開き始めたとき、私は父なる神様の圧倒されんばかりの豊かな愛に満たされているのに気づきました。小さな昆虫のきらめく翼や、星の澄んだ輝きは、私を楽しませるためにそこにおかれているように見えます。私の家庭でのひとつひとつの仕事は、祝福であり私に与えられている信頼のしるしであります。毎日が生き生きとして、楽しくなりました。

二 人の宣教師は転勤しました。私は心からの愛と感謝で彼らをいつもおもいだします。彼らは私に素晴らしい贈物を下さいました。それを分け与えることが、彼らへの感謝をあらわすことになるのだと思います。私の夫のチャーリーは、まだ会員ではありませんが彼は間もなくそうなると思います。今、夫は、私が以前に宣教師にしたと同じような質問をしてきます。

「福音こそ、私の人生で最も素晴らしいものです」と私は、その夜のディナーパーティで隣りにすわった男の方に話しました。また私はお会いするすべての人々にそう話します。



終わりまで耐え忍ぶ者

ベル S. スパップォード

1962年9月27日 扶助協会年次大会での演説



「競争は速い者のためでもなく、強い者の戦うためでもない。ただ終わりまで耐え忍ぶ者のためである」というこの金言を真実であると言うことができます。

「耐え忍ぶ」ことは、よわることなく力尽きることなく同じ状態を持続することです。敗北することなく苦しみや困難や失意や辛苦にあっても力をもち続けることです。

歴 史は実現された目標や、勝ち抜いた戦いに満ちてはいますが、これらは輝かしい出発をした人々や、最初から優勢に立った人々によって作られたのではなく、確固として持場につき、困難に打ちかとうと苦悩し、絶えざる努力を重ねた人々によってもたされたのであります。

聖 典は、キリストの福音を受け入れ、終わりまで耐え忍ぶ人々に金ではかることのできない祝福を約束しております。このことに関して聖典を一度だけではなく、幾度となく読むべきでありましょう。この訓戒と祝福に関する聖句のひとつに次のようなものがあります。

「もし汝が誠命を守り終りまで忍ぶならば、永遠の生命を得ん。これ神のあらゆる賜の中最大なるものなり。」

(教義と聖約 14:7)

永 遠の生命はその名にふさわしいすべての末日聖徒が得たいと乞い願っている価値ある贈物であります。困苦と試練に満ちた錯ちた世界にあって、人間としての弱さと不完全さをもって

いる私たちにとって、生涯を耐え忍ぶことはいつも容易ではありません。確かな信仰と強固な信念と堅実な人格を求めましょう。誤った態度が少しずつ増して心に感じるこなしに神の御旨にさからうようになることによって誤ちはもたらされます。そして残念なことですが私たちは、このようなことが自分の生活に影響を及ぼしていることを気付かずこの誤ちを正当化しようとしています。

お もしろい経験について述べたいと思います。みなさまの多くが御存知のように、特別な状況にあって、年老いた姉妹たちを看護し彼女たちに住むべき家を準備するようにと扶助協会は、兄弟たちから責任と権能を与えられております。ある日、私はこのような扶助協会に行ってみました。会員たちは75才から90才にまで及んでいました。彼女たちは歩くこともでき、明るい心もち、扶助協会に対して熱心でした。レッスンは教義と聖約からで、そのあと証詞会が行われました。その姉妹たちは、レッスンの討論に活発に参加しておりました。その内容は、その人々の豊かな人生経験とともに、福音の教えるところにすっかり融和しており、教会の教義に感化されたものでありました。それは素晴らしい会合でした。間もなく証詞を述べる時がきました。話をされる一人一人が次々に終わりまで耐え忍ぶことができるよう祈りました。レッスンの討論によって福音に対する彼女たちの深い理解をまのあたりにみて、私は人生の最後にあたって、ほとんどの人々がなぜ終わりまで耐えられるように祈らなければならないのだろうかと考えさせられました。そしてこう思ったのです。彼女たちは、確かにすでに自らを証詞しているのだと。

し かし間もなく、彼女たちの幾人かと個人的にお話しして私は彼女たちがとがめを受けなければならない人たちであることに気付いたのです。といいますのは、彼女たちは、年令や生活の状態のために福音の律法に従うことができないということを弁解がちであったからです。

私が彼女たちとお話した内容のいくつかは次のようなことでした。

— 人の姉妹はこのように言いました。「扶助協会と同様に、この家で聖餐会をしておりますが、私は聖餐会には全然行ったことがありません。なにしろ年をとりすぎていますから」と。私は「あなたは聖餐に与りたいとは思いませんか」とたずねま

した。「いいえ、私の年になってそんなこと考えません」と、その姉妹は無難作に答えました。

も 一人の姉妹が言いました。「私は今の家より小さ目のもっといい家に引越ししたいのです。ええ、お金は十分にあります。私はお金を使う人が一人もいなくて自分一人だけで使うのですから。家族は私のお金が必要ではありませんし、私はもうお金のかかるようなことを他の人々にしてあげることは興味がありません。什分の一だって払いません。主はこんな年の私にそれを望んでおられるなんて思えませんから」と。

私 がうかがった時に、お茶を飲んでいたもう一人の姉妹は、「私はお茶が楽しみで生きているようなものでしてね。若い人とは違いますからね、もうやめるといわれたって……。私はお茶を飲むのをやめられませんね」と言いました。

ま たある姉妹は、ドアのむこうにくつ音がした時「私の娘でなくちゃいいんだが。娘は訪問しなければいろいろ言われるものだから、それがこわくて来たんですよ。娘は私に愛なんか全然持ち合わせていませんよ。私だって彼女に愛なんかありませんしね」と言いました。さらに次のようなことを言った人もおります。「私は毎月だんだん衰弱して行くようで、苦しみながら生きています。私は長老たちにやしの儀式をしてもらいましたが、もうそんなこと決して信じません」と。

聖 餐会に出席し、聖餐に与ること、聖約を新らたにすること、什分の一を払うこと、知恵の言葉を守ること、家庭を愛すること、神権を行使すること——これら福音のすべての基本的な律法——は、正当化しようという感情からこれらの姉妹たちによって放棄されてしまったのです。けれども彼女たちは、熱心に終わるまで耐え忍ぶことができるようにと祈っているのです。

こ のような姉妹たちやその環境に対して私たちは深く同情し、その行ないについても理解すべきではありますが、私たちは断固とした心で、彼女たちが神の律法を守っていないことに気づかなければなりません。私は次のように問わざるを得ません。「神は誠命を守るに関して隠居の年を定められたでしょうか」

人 が無関心をつのらせるのは、このような年代だけでは限りません。若い年代にあっても、誠命を破り、正義を守る勇気をもたず、大切だとわかりながらも律法に不従順であり、教会の教えに不忠実なのを正当化しようとしている人々がおります。社会の圧力や流行の誘惑、自分を高めたいと思いつつも人を導く光をもとめず、他に人と同じでいたいと願うこと。逆境、満たされない期待、失望、これらすべては時に人に重くおおいにかさり、弱さにとどまらせて、悪魔が入りこもうとするドアを開けているのです。

時 々私たちは感情の面で教会の教えに反する態度をとることがあります。「正しくないことはわかっている。しかしそれをやろうとは思わない。一度や二度はたいしたことはないんだ」と。しかしながら一度や二度が間もなくしばしばやることになり、遂にはそのような態度が習慣にまでなってしまうのです。また、ひとつの点を弱めると他のひとつも容易に弱くなるものなのです。私はうかがいたいと思います。

「聖餐会に定期的に出席しない人々にとって、安息日を聖日として保つことが容易に考えられるでしょうか」。

こ のように、誤ちは私たちの生活にそっと忍び込みます。終わるまで耐え忍ぶ人々に約束された祝福は危険に陥っています。では、私たちはどのようにして真すぐな狭い道から私たちを遠ざ

けて落し穴へ導くものを避けることができるでしょうか。また私たちは終わるまで耐え忍ぶ力をどのようにして得ることができるでしょうか。

先 ず、人の能力を伸ばしよい機会を与える教会活動に休まずに参加することを提案したいと思います。

私は、誠命を守ることによって約束された祝福を心にとめて聖典の研究をすることをおすすめしたいと思います。知恵の言葉に忠実な人々に対する主の約束が、教義と聖約の89章に述べられてありますが、これ以上に望ましいものが他にあるでしょうか。

「およそこれらの言葉を憶えて守り且つ行い、この誠命に従って歩むすべての聖徒らは、そのへそに健康を受けその骨に髓を受けん。また知恵と知識の大いなる宝まことに秘れたる宝を見出さん。而して走れども疲れず、歩けども気を失うことなからん。主なるわれ彼らに一つの約束を与う。すなわち、さつりくの天使はイスラエルの小児たちが如く、彼らを過ぎ越して屠ることなかるべし。」

(教義と聖約 89:18~21)

マラキ書に見られる什分の一を支払う人々についての約束を考えてください。

わたしの宮に食物のあるように什分の一全部をわたしの倉に携えてきなさい。これをもってわたしを試みわたしが天の窓を開いてあふる恵みを、あなたがたに注ぐか否かを見なさいと万軍の主は言われる。(マラキ書 10:3)

個人的な体験を通じて確信することの必要な人々は、アルマのこゝばを心にとめて下さい。

「しかし、あなたたちがもし目をさましてふり立ち、その能力をつくして少しなりとも信じながら私の言葉を実際にためしてみるならば、たとえ信じようとする望みを起すだけでもよい。しかし、私の言葉の一部分でも受け入れるほどの信仰ができるようになるまで、この望みを育ててゆけ。」(アルマ書 32:27)

私 は霊的な強靱さは聖餐を受けることによって、しかもそれに価値をみとめて与ることによってもたらされることを知っていただきたいと思います。主が要求されている会合—聖餐会—に出席するとき、これを覚えてください。私たちの心を生活の逆境にとどめるよりも祝福にむけるほうが、よいことではないでしょうか。主が知恵をもって否定の答をくださっておられたかも知れない祈りを思い起して下さい。

個 人的事情のために神の誠命に不従順であることを正当化するようなことはやめましょう。

また強さは実践によって増し、主は断食と祈りによって熱心に助けを求める人々を助けられるということを忘れないようにしましょう。

人生の苦難や困苦にめげず、信仰をもって耐え忍ぶとき、成功があり障害にうちかつことができ、天父の律法に信頼し従順であることができるのです。

聖 書はヤコブの息子ヨセフの感銘深い例を示しております。ヨセフは父が老年になってから生まれた子供でありました。彼は兄弟たちのいつわりによってついにエジプトのポテパルの屋敷に住みました。父の命令をうけて兄弟が憎しみに燃えて彼を追放しようと決めた恐ろしい敵であることを気づかずに、兄弟の寛容さと愛をもって彼らのところへ行く少年のことを思い起して下さい。

聖書評釈は、次のように述べております。

単 なる義望または父の愛の不公平なことが、血迷った憎しみの絶頂にまで彼らを刺激したと考えることは不可能である。ヨセフに対する彼らの憎悪は、ヨセフの行ないや人格の優れていることが彼らの目には非難としかうつらなかつた結果としての嫌悪から生み出されたものである。

エ ジプト王家の偶像崇拜主義者の中であって、この少年は奇妙な周囲の状況と争わなければなりません。父ヤコブから離れたとはいえ、ヨセフは天父と離れてはおりませんでした。彼は神に忠実であり熱心に仕え、その戒めを守りました。そしてそのことは時々彼にこの世の利益をもたらしたのです。しかしながらそれは彼に極度の苦痛——入獄さえもたらしました。

(創世記 41:14)

し かし主は彼の信仰の故に生涯を通してヨセフを祝福し彼を通してその父の家をも祝福なさいました。ポテパルの妻が男性に対する最も不名誉なことを強いたときに、彼女へのヨセフのいさめのことばにはその道を妨げるすべての悪に対する彼の態度がはっきりと現われております。「どうしてわたしはこの大きな悪をおこなって、神に罪を犯すことができましょう」(創世記 39:9)

ヨ セフはエジプトのつかさに昇進して80才まで生き、主の戒めを守る人々に彼の信仰の証詞を示しつつ、主の確かな約束を説きつづけたのであります。彼の全生涯は良識と正義の行為に支えられた正しいはたらきを示しております。

新 約聖書の中で、私たちはパウロについて学びます。最初はクリスチャンの迫害者であり、後にキリストの献身的な従者となり、教師として、宣教師として、使徒として働きましたが、晩年にあたり自信を持って次のように述べております。

「わたしは戦いをりっぱに戦いぬき走るべき行程を走りつくし、信仰を守りとおした。今や義の冠がわたしを待っているばかりである。かの日には、公平な審判者である主が、それを授けて下さるであろう。わたしばかりではなく、主の出現を心から待ち望んでいたすべての人にも授けて下さるであろう」(テモテ後書 4:7-8)

モ ルモン経は、終わりで耐えて信仰を守り抜いた人について多くの優れた例を示しております。リーハイ、ヤコブ、モルモン、イノス、アビナダイやその他の人々の忠実さ故にレーマン人のために主が彼らと契約をなされたのを見ることができます。アビナダイについて述べましょう。アビナダイは、ニーフアイ人の預言者で、罪悪のためにノア王の民の邪悪さを叱責しようと主がニーフアイ・リーハイの地に起こした人でした。彼はあまりにも激しく叱責したために牢獄に入れられ、よこしまな祭司たちは彼を殺すように主張しました。

そ こで祭司らが立ってアビナダイを捕えようとしたが、アビナダイは祭司らを防いで言った。「私にさわるな。もし私に手をかけるならば神が必ずあなたらをうち破りたもうであろう。私は主が私をつかわして伝えさせようと思ったもうた使命をまだ果していない。またあなたらが私に説明をせよと言ったこともまだ説明していない。それで神は私が今亡びるのを許したまわないのである。」

(モーサヤ書 13:2-3)

こ の聖句は、聖なる力によって守られているアビナダイを殺すことができなかったことを物語っています。アビナダイは、謙遜に、次のようなことばで主の御業への完全な信頼をあらわしたのであります。

「しかし私は自分の使命を果そう。それから私が救われるならば自分の行末については何の心がかかりもないのである。」

(モーサヤ書 13:9)

殉教もいとわない忠実さをもって終わりで耐え忍ぶ者が確かに救われるという約束はアビナダイの祝福でありました。

このことばはまた、大きな、試練や困難に直面したときに耐え忍ぶ力をもち続ける人々の例をあらわしています。私たちは男性と同様に女性にもこのような優れた模範を思い浮べることができます。それはあるいは素朴で飾らない心をもつ女性や傑出した才能をもって働いている女性でありました。

い つもこのような忠実な人々の魂を模範として心にとめて生活しましょう。それは過去の想像の産物ではありません。それは実に生きている人間の世の出来事であり、その世は私たちの世と同じでありました。忠実さを保持する人々の間にいるよう努めましょう。誘惑に抗することは実に困難であり、困難に打ち勝ち信仰を強くすることは容易なことではありません。この頹廢的な世の中にあって肉体を楽しませ悪に落込むことは容易であります。間違いを正当化する人間の弱さを避けて、しかもそれを持続することは容易ではありません。しかしこれは、終わりで耐え忍ぶ者に主が与えられる約束の祝福を自分のよろこびとするためにどうしてもしなくてはならないことであります。そして私たちにはそれが出来るのです。

そ れはなんと素晴らしいことでしょうか。もし私たちそれぞれがパウロの人生の終わりに述べたように言うことができたしたら、この世はなんと良いものでありましょう。すなわち、「私は走るべき行程を走りつくし信仰を守りとおした」と。

このような終わりに向かって私たちが熱心に働くことができますように私は心からお祈り申し上げます。

日曜学校



正に研究に
よりて……

クリス D. パウロス



有名な英国の心理学者が、文明社会において多くの人は、生きている限り、何かを学び続けるものだと言ったことがあります。これはおおむね正しいことのように思われます。しかし私たちのほとんどは、宗教を含むどんな分野においても系統だった研究を行おうとしないことは明らかであります。人が勉強しはじめたというようなことを聞くと私たちは勇気を得ます。フェニックス市に住むある主婦は、子供たちみんなをきちんと養育し終わると、教職免許をとるために、また大学に戻りました。カリフォルニア高校の女生徒は、すでにAとBをもっているのに、オールAをとるために非常な勉強をしました。オレゴン州のあるセールスマンは、職業上の地位を向上させるために大学に籍を置きました。カリフォルニアに住む父親は、福音を学ぶためにセミナーの教室で自分の娘の後に坐って勉強し始めました。ユタのある鉄工員は、「私は45歳だが、日頃得たいと思っていた学位を得るためにまだまだ勉強できる。どのくらい長いかかわからないが、学位を受けたい。だから今年の秋には入学するつもりです」と言っています。これらの人々は、それぞれの理由で、勉強しようと決心しました。彼らが得る成果は、学習のやり方が効果的であるかどうかにかかっています。

学習とは何か？

学習は他の活動とどのようにちがうのでしょうか。辞書では次のように定義しています。

1. 知識を獲得するために精神を用いる行為
2. 厳密な探求
3. 厳密な思考
4. 知識への意欲
5. 自らの努力で知識を獲得すること。

学習と他の活動（例えば、読書）とのちがいは、それにかたむける努力の程度にあるように私は思います。ジョン A・ウィットソーは、他の分野と同様、宗教においても続けて勉強する厳しい努力が必要なことについて述べています。宗教的真理を理解するために、勉強は必要である。イエス・キリストの福音は、すべて他の知識を包含する。福音は人間と宇宙との関係を説明する哲学であ

る。それはもっとも深い学問と、もっともきびしい調査を必要とする。科学におけると同様宗教においても、ひとつの主題が研究されればされるほど、われわれのそれに対する知識は完全になる。注意深い研究を通して主題に精通することが出来なければ、特に精神面においてはなほだよくない結果が生じる。科学の究極をきわめようと何年間も研究に従事しながら、系統立てて宗教を考えるためにわずかに数週間しか費やさない人は、この両分野が同様の深さを持っていることに無知なのである。宗教を理解する為には注意深く学ばなくてはならない。

信仰をもたない口やかましい人たちは、このような系統的研究をしたがらないが、問題は次のようなところにある。

「真理に達する過程においてはすべて旅行者は自分自身の足で歩かなければならない。真理の研究はそれ故にすべての人に要求されている。」

上ウィットソー長老の言葉を要約すれば、

1. 学習はたゆまぬ努力と熱心な研究を含む。
2. 研究するためには、常にある程度自分が主人でなければならない。ということです。

なぜ学習するのか？

勉強したいと望む理由はさまざまです。当然「学ぶために学ぶ」という考えもありますし、経済的保証を増すためとか、永遠の生命を得たいとか、よい先生になりたいとかいろいろあります。

予言者ジョセフ・スミスは、学問の重要性を強調する二つの啓示を受けています。

そは、必ずしもすべての人信仰なきが故に、汝ら努めて求め、互いに知恵ある言葉を教うべし。然り、汝ら最も善き書より知恵ある言葉を探し求めよ。正に研究と信仰とによりて学問を求めべし。（教義と聖約 88：118）

而して支部教会を整頓し、学修研究してあらゆる善き書に通じ、また諸々の国語と諸々の言葉と国民とに通ぜよ。

（教義と聖約 90：15）

どのように学ぶか？

実 際、「どのように学ぶか」というのは、「どのように善いか」ということと同じく、漠然として複雑です。簡単に、一口で教えられるものではありません。学習とは、ひとつの態度であり、単に規則を定めることではないのです。読み書きを習っているすべての人々は、どのように学ぶかということについて何かを学んでいるとも言えます。そして読み書きは学問に直接必要な伝達の道具なのです。しかしながら、学習は、習得できるひとつの技術でもあり、ある方法を使うことで、かなりの向上が可能なことを示すひじょうにたくさんの研究結果があります。

学 習に効果的で大切な必要条件は、定期的な学習スケジュールと、精神を集中できる静かな場所と動機づけです。さて、問題はどのようにしたら時間をもっとも有効に使えるだろうかということです。実際に行われる学習計画にはたくさんのアプローチがありますが、私たちが用いなければならない一般的な法則はいくつかあります。オハイオ州立大学のフランシス・P・ロビンソン博士は、研究結果として、「サーヴェイQ3R法」と呼ぶある方法を考えておられます。これは、調査の Survey (サーヴェイ)、質問の Q、読むの Read、暗誦の Recite、復習の Review の 3 R という意味です。

ピンソン博士のこの方法は自習学習に適しているでしょう。

口 また、日曜学校や職業訓練や、小学校、中学校、高等学校などの学校教育の面でも役立つでしょう。大学においてもそうです。ロビンソン博士の考えは、本の学習に関することですが、手引、クラス、ノート、パンフレット、記事などに適用されるでしょう。

(1) 調査

A 長射程調査

1. 著者が何を意図しているかをはっきりさせるために、本の序文や紹介を読む。読み進みながら、著者が述べていることが表われ、その意図を伝えているかどうかを正しく判断する。
2. 目次を読む。これはその本の路線図である。問題の答えは簡単に最初の章で見い出せる。それから他の参考箇所に移る。
3. ページ数や絵、プリントの寸法、またグラフやチャートがどれ位入っているかを見るために本をひとわりながめる。本はこれら資料によって豊かになっている。これらを知れば本に含まれている資料に対して、学習時間を配分することができる。
4. 他の人によって研究され、試されたことから加えて、更に研究を重ねていろいろな考えを探索する。研究するにあたっては人が一里行ったら二里行く精神で学習態度を発展させる。

B 短射程調査

1. 内容の骨組みがどのように発展しているかを早く見るために各章の冒頭部をざっと読む。
2. 一章を読む前に、最後の結論部の節を一わり読む。その章に展開されている思想の全体像を理解する助けとなるからである。

(2) 質問

A 各々の冒頭部を疑問とつき合わせる。

B 疑問の答えをさがしながら読む。読んでいる間に、積極的に疑問も起らず従ってその答えも出ない場合、おそらく正しく精神集中ができないのだろう。

C 本の内容が複雑なときは、本か紙片にノートする。えんぴつを持って読む。第一回目の読みでポイントがはっきりしないときは後ではっきりさせること。その場合、他の参考文献かその分野の権威者の助けを借りること。

D 面倒がらずに辞書をよく調べる。百科辞典、標準参考文献も参考にする。語彙をふやしたり、読解力、スペリング、文法の力をつけたり、その他学習のための基本教具は、安い費用で現在手に入れることができる。これら基本的なことを向上させるとき、学習能力は向上するのである。

(3) 読み

本の質問に対し自問自答しているときは、本当に読んでるのである。サーヴェイQ3R法の重複する点に就て一言せねばならない。われわれの勉強にあてはまる点も多いがそうでない点は無視した。我々が学習を特に効果的に行う為に分類し、必要なことがらを強調しているのである。この方式から言えば、読書の鍵は生々とした読みである。読みは紙上にしるしをつけるだけで生きてくるのだが、そのためには努力を集中する必要がある。しかし、新しい知識が、自分の知識袋に貯えられている他の経験と関連づけられる時にそれが生かされてくることを覚えなさい。新しい情報を、知っている考えに関連づけるこの過程が、暗誦学習を発展的なものとするのである。

(4) 暗誦

心にとめるべきことが二つある。

A くり返しは記憶を高めるものである。教材がくり返されればされるほど、よく覚えることができる。ある人の名前を何度もくり返すだけで、その名をすっかり覚えこんでしまうのがその例である。

B 学ぶ時に一つ以上の感覚を使うと、よく覚えられものである。例えば、単語を勉強しているとき、本をちらっと見て(視覚)、黒板にその言葉を書いて(触覚)、声に出してくり返す(聴覚)、もし教材がいろいろな感覚を十分に用いてくり返されるなら、質的にも量的にも、理解力は増す。これは小さなグループでの学習に効果的である。

(5) 復習

「復習」は、もう一度見直すことである。我々は同時にたくさんのことを理解し、覚えようとし過ぎる。いたずらに長い学習時間より復習の有益なことを研究が示している。また、えられた主題のために8時間あったとすると、いちどに8時間を行うよりも4回に分けて2時間ずつに区切った方がよいのである。日曜学校においてでも最上の効果をあげるには「詰め込み」にすべきではないことがわかる。

さて「どのように学習するか」という主題について書いて来ました。いろいろな記事やパンフレットや教科書が利用できます。また大学や公立学校の成人教育プログラムで正式な学習課程を学ぶこともできます。

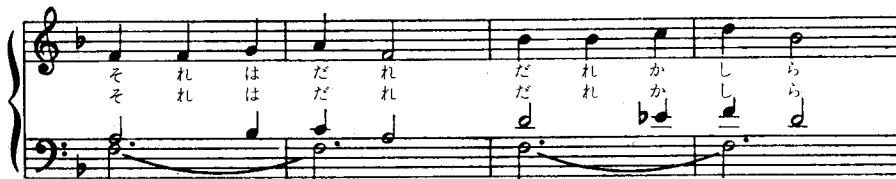
これらの助けを用いれば用いるほど、私たちは学習技術の向上に役立つ知識を得るのです。「正に研究によりて……」

子供日曜学校のために

子供日曜学校の新しい歌です。母の日は5月ですが、子供たちが上手に歌えるためには長い期間が必要です。練習して下さい。

それはお母さん

ベッキー・リー・ヒル



それはお母さん

ベッキー・リー・ヒル

よいことを おしえ

びようきのよ みまもる

それはだれ だれかしら

だいすきな お母さん

かなしみを なぐさめ

えがおには よろこぶ

それはだれ だれかしら

だいすきな お母さん



せい

聖

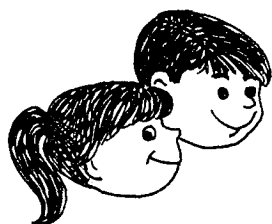
と

徒

の

みち

道



1968年3月号

こどものため

こうしじまのしまうま

ドロシー エス ブロンデル



た　かいおやまに、とてもかわいそ
うな、ちいさなしまうまがすん
でいました。どうしてかわいそうです
って？

それはね、ふつうのしまうまとはち
がっていたからです。まいあさそのこ
は、ちいさなおやまのみずうみへゆ
く、まがりくねったみちを、あるいて
いって、みずじぶんのすがたをうつ
してみようと、おおきなばらのきの
そばにたつのでした。そしてそのこは
いつもかなしそうにあたまをふるの
でした。かわいそうに、きれいにすんだ
みずうみにうつるじぶんのすがたは、
まえのひにみたとおなじおかしなす
がたでした。

そのこは、こみちをかけおりて、む
れにはいったとき、そのこをみたほか
のしまうまが、みんなおおわらいする
のです。そのこのおとうさんとおかあ
さんは、じぶんたちもはずかしくて、
そのこをひとめにつかないようにしま
した。ほかのどうぶつからすっかりそ
のこをかくしてしまうかとさえかんが
えました。

ではいったいこのこのどこがいけな
かったのでしょうか。じつはしまがこう
しのようについていたのです。

みんなしっているでしょう。しまう
まってよこにしまもようがついていな
いでしょう。ところがそのこにはそれ

がついているのです。そのこはほん
とうにこうしじまもようだったのです。
どんなにそのこはおそれたことで
よ。こんなこをみておとうさんとおか
あさんは、どんなにかなしんだこと
でしょう。あるひ、このちいさなこがむ
れのなかにはいって、みんなといっし
よにはしっていたとき、「ライオンが
おってくるぞ」というするどいこえが
しました。

とつぜん、ライオンはそのこをみて
たちどまりました。ライオンはすわり
こみ、めをぱちぱちして、めをこすり
ました。

「しまうまはどちらににげたんだ」
ライオンはうなりごえをあげました。
ライオンはたてよこにはしっているし
まもようのそのこをみて、すっかりこ
んらんしてしまったのです。そのうち
に、むれのすべてのしまうまは、ライ
オンからにげてしまったので、ライオ
ンはキョトンとしてしまいました。

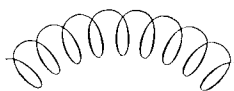
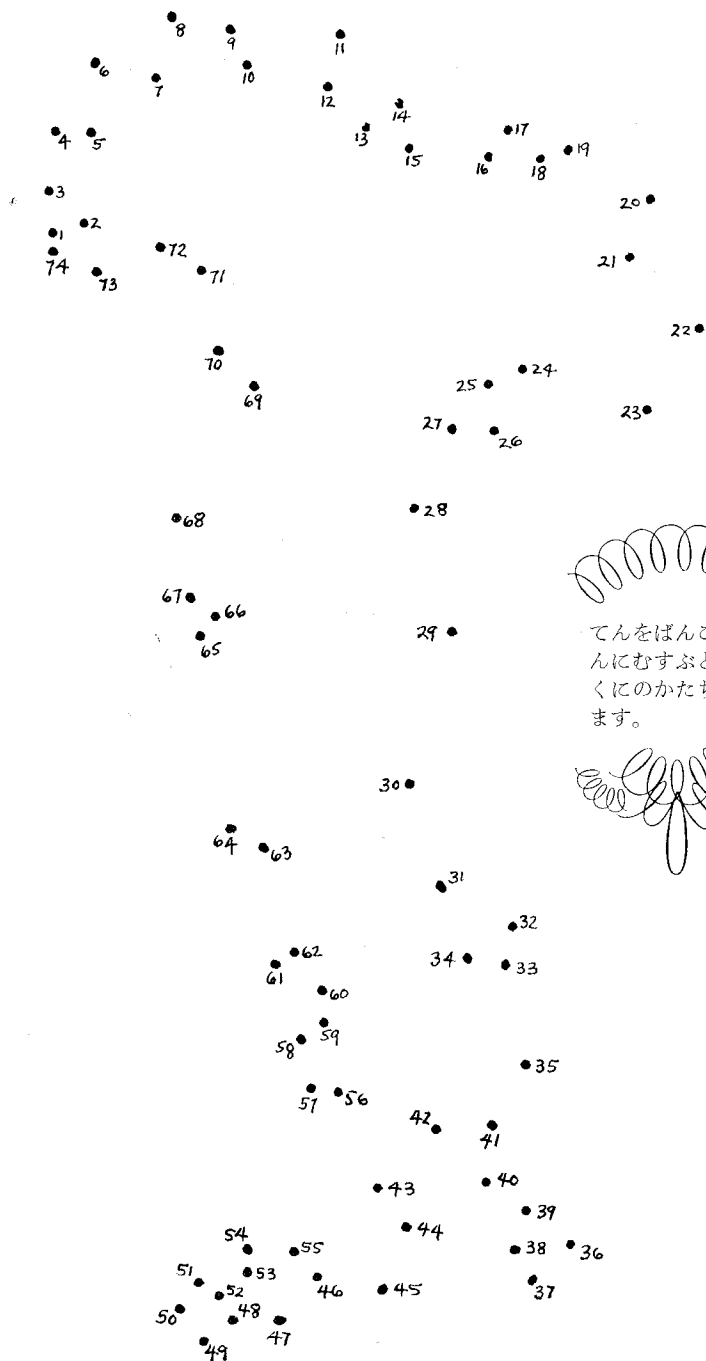
「ぼくがやったこと、じぶんでよく
わかるよ。いまからライオンがぼくた
ちを、おいかけたら、ぼくがライオン
をこんらんさせるから、きっとおどろ
いちゃうよ。そしてライオンがぼくが
どこにゆくかと、かんがえているまに
みんなにげられるんだよ。」こうしじま
のしまうまは、ほかのみんなにいいま
した。

わかりますか。そのこはとてもよい
ことをしたんですよ。

そのひから、そのこはとても、とて
もよいたいせつなしまうまして、し

られるようになりました。なぜって、
あのおそろしいライオンから、むれの
みんなをすくったのですからね。





てんをばんごうじゅ
んにむすぶと、ある
くにかたちになります。



クレージィサーズデー

リー デビッド



(クレージー サースデー とは

ドイツの祭日で日本の節分に似ている)

カ ルルはフライターグ音楽学校の階段を
いっぺんに二段かけ降りた。

「フリッツノ」

と彼は親友の名前を呼んだ。

しかし灰色の上着を着たその少年は、ブラウン通りをとぶように急いで行った。彼はよくが呼ぶのを聞かなかったんだな、とカルルは思った。でも木曜日の祝祭日には会えるさ、と彼はつぶやいた。彼とフリッツは、冬を追いついてしまう年一回のお祭りに、おめんをかぶった村人たちと参加することになっていた。みんなは、厳しい冬を追いついて、春が来るのを待ちのぞんで、押し合いひしめき合って通りという通りを走りまわるのだった。

ぼくは、ここ数日というもののフリッツがどこでどうしているのかわからない、ぼくに全然姿を見せないんだから、とカルルはいぶかった。

「カルル・シュナイダー」音楽学校の生徒の一人が叫んだ。

「フリッツ、ミューラーが“クレージーサースデーの祭り”につけるベートーベンのお面を見たかい」

その生徒は言った。

「そんなことはできないよ、そのベートーベンのお面はぼくが借りることになっていることも、ぼくが今夜までその金がないこともフリッツは知っているはずだよ。

「でもさ、ぼくフリッツが君の借りようとする面をフライターグさんに見せていたのを

見たのはきのうのことだったんだぜ」

と、少年は言い張った。

「まちがいだよ」

家の方にくると向きながらカルルは言った。

でも、彼が通りを走っているとき、ぼくが今晚借りるはずになっている面をフリッツが先取りしてしまったので、ぼくを避けているのかなと思わないではいられなくなって来た。

「まだすっかり食べ終わってませんよ、なんですかカルル」

とおかあさんが食事中にたしなめた。

「ぼくおなかそんなにすいてないんだもの。それにお面を借りに衣裳店に急いで行かなくっちゃならないの、すぐ閉まっちゃうんだ」彼はとう弁解した。

「そりゃ一年に一度のクレージーサースデーが来るんですからいいんだけど、それじゃあなたはうどんのように細くなってしまつてよ」彼のおかあさんはこう言った。ジャケットを上げながら、カルルは外へ走った。彼のこぶしは興奮のあまり固いボールのようにしっかりと握られていた。彼の手をつつんでいる厚手の手袋がなかったら、つめが肉にさしこんでしまったかも知れない。もしフリッツがぼくの親友であるのを嫌だと思っていたらどうしようノ カルルが衣裳店に近づいたとき、深い吐息をもらした。店はまだやっていた。店内で、彼の視線は面の列から列へとめまぐるしく動いた。だがカルルは自分がほしがっていた面を見つけることができなかつた。

た。

「ちょうどこのところに先週はベートウベンベームの面がちゃんとあったんだがなあ」カルルはぽかんと空いたところを指さしながら言った。

「あのうベートーベンの面まだあるでしょうか」店員は借出簿の名前の欄に指を走らせた。

そしてこう言ったのだ。

「ええと、……ここにベートーベンの面は……フリッツ・ミュラーが借りてますよ」と。

「そんなことが！」とカルルは叫んだ。しかし自分の方をにらみつけているようなフリッツの名前があった。でもほんとうだった！自分の親友がアイデアをとってしまうなんて。わき目もふらずにカルルは店から走り出た。傷つけられた気持と怒りでいっぱいだった。だから彼と衝突が起こったのも不思議ではない。

「フリッツ！」とカルルは叫んだ。

「君、いったいここで何をしてるんだい」

「クレージィサースデーにつけるモーツアルトの面を借りに行くところさ。ぼくが計画したこと覚えてるだろう」

「フリッツ、どうして君嘘をつくの」とカルルは道をさえぎり言った。

「ぼく、あの衣裳店から出て来たばかりなんだよ。そしたらさ、君の名前がベートウベンを借りたって出てたんだ。あれはぼくがつけたい面だってこと君知っていたんだろう」フリッツの頬は真赤になった。

「説明するよ、ちょっと、でもまず道を開けてくれよ。衣裳店が閉まっちゃうから」

「じゃ行けよ」とカルルは叫んだ。

「でもぼく二度と君を見たくないからね」カルルはこう言った。

フリッツが話す前に、カルルの足は家へすばやく向かっていった。彼の心はぐらぐらして

いた。もう彼らの友情は終わった！彼はフリッツのことを忘れてしまっただろう。彼が友だちを作れる教室にはこれみよがしに他の生徒がわんさとした。カルルが帰宅して間もなく、激しくドアを叩く音がした。

「カルル、フリッツが会いに来ましたよ」台所から彼のお母さんが呼んだ。

「会いたくないよ」

カルルは、はき捨てるように言った。

少したつとフリッツの声がカルルの寝室にまで聞こえて来た。

「カルル、何がおこったかぼくに説明させてよ。ねえおねがいだ」

カルルはどうしようか思い迷った。彼は説明させた方がよいなと思ったので、不承不精に、

「いいよ」

と言って台所の方へのっしのっしと歩いて行った。

「ぼく昨日モーツアルトの面を借りに衣裳店に行ったんだ。そうしたら音楽学校の生徒がベートーベンに興味ありげに君が借りようとしている面を借りようとしていたんだ」

「でも結局それを借りたのは君じゃないか」

カルルは責めた。

「そうだともしカルル、君のためになんだ。

ぼくひとつしか借りられなかったんだよ。お金がなくて。だからあの生徒が借りてしまう前に君のためにベートウベンの面を借りた方がいいと思ってさ」

フリッツは彼がしっかりと持っていた茶色の紙袋に手を入れた。

「店がしまいう前に急がなければならなかったのは、これ、これなんだよ。ぼくの面を借りるためだったんだ。わかる？」

彼はモーツアルトの面をとり出し同時にベートーベンのも出してカルルに手渡した。

「ごめんね。ぼく誤解してたんだ。君のこ

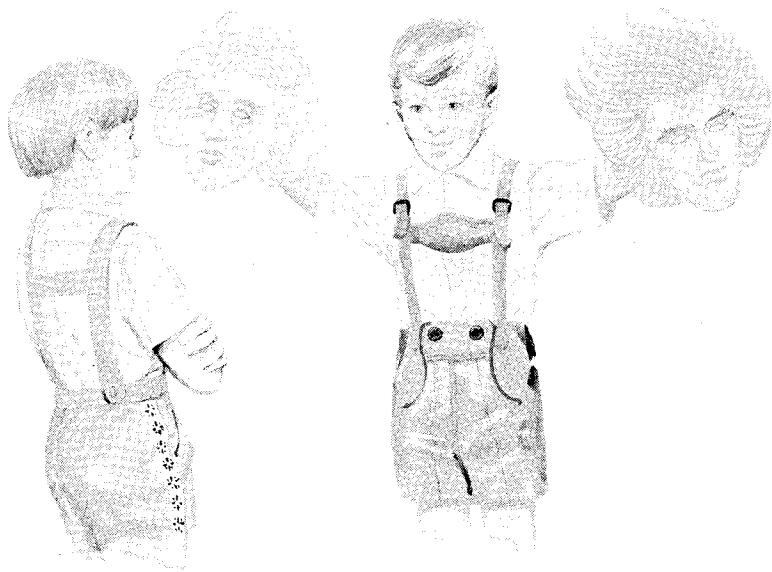
と。いきなりとんでもないことを考えちゃって」

カルルはフリッツの方へ手を伸ばした。そしてこう言った。

「まだぼくたち親友だね」

「いつでもだよ」

フリッツは彼の友の手をしっかりと握りながらほほえんだ。



世界の料理

ウィニフレッド・ジャーディン

○ハワイアン風アンブロシア

この美しい果物のデザートは年中作られ、どんな食物にもさわやかな風味をそえます。

・材料

みかん 2個 (皮をむいて細かく切る)
バナナ 2本 (皮をむいて細かく切る)
パイナップル (缶詰) 2~3枚 (細かく切る)
粉砂糖
ココナッツ ½カップ

・作り方

- ①果物をまぜて粉砂糖をふりかけ、冷たくする。
- ②ココナッツは盛りつける直前に入れてきつとまぜる。
- ③5人前にわけて供す。

○ジャン・ハーゲル

オランダ人は特別なパーティに、このかりかりしたバター入りの棒状クッキーをよく作ります。

・材料

バターまたはマーガリン 1カップ
砂糖 1カップ
卵 1個 (卵黄と卵白をわけておく)
ふるいにかけた小麦粉 2カップ
シナモン 小さじ½
水 大さじ1
細かく刻んだナッツ ½カップ

・作り方

- ①ジェリーロールパン (15½×10½×1インチ大のケーキ型) にバターをぬる。
- ②バター、砂糖、卵、卵黄を一緒にしてクリーム状で、ふわふわとした状態になるまで混ぜ合わせる。
- ③②の中に小麦粉とシナモンを入れて、さっとまぜる。
- ④油を塗ったケーキ型にクッキーのねり粉を広げて平らにする。
- ⑤水と白味をまぜて泡立て、はけでねり粉の上にぬる。

⑥180°C位の温度で20分~25分間、きつね色になるまで焼く。天火からとりだしたらすぐに薄い棒状に切る。

○スペイン風ライス

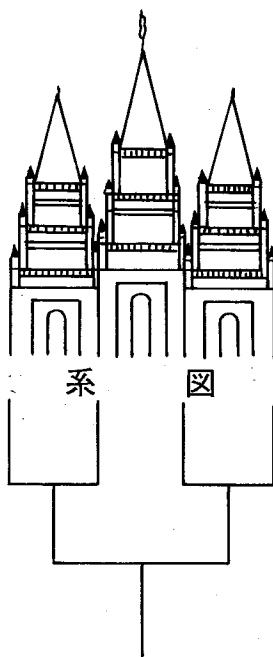
この簡単な夕食は、二晩目までは暖めれば最初のままの風味でいただくことができます。

・材料

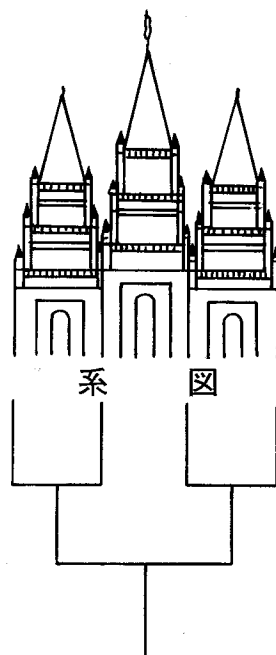
ベーコン	6枚
玉ねぎ	¼カップ (みじん切り)
ピーマン	¼カップ (細かく切る)
御飯	3カップ
トマト	2カップ (缶詰がよい)
塩	小1½
胡椒	少々

・作り方

- ①ベーコンは小さく切っていためる。いためたなべから取り出しておく。
- ②なべに残ったベーコンの油で、玉ねぎとピーマンをいためる。(玉ねぎが色づくまで)
- ③残りの材料を加えて約15分間あつくなるまで弱火で調理し、5人前の分量とする。



誓 約 の 子



信

仰の父アブラハムの息子であるイサクの契約の子ヤコブは、12人の息子たちの父となった。そのうちのヨセフはラケルから生まれた。それで、彼の兄弟たちはこの寵愛を受けた子を憎んだ。（創世記 37：3～4参照）

あ

るとき、ヨセフは、兄弟たちが畑の中で束を結わえていたとき、ヨセフの束が起きて立つと、他の兄弟たちの束がまわりに来て、ヨセフの束を拝んだ夢を見た。この夢を語ったとき、前よりもいっそう憎んだ兄弟たちはいった。「あなたはほんとうにわたしたちの王になるのか。あなたは実際わたしたちを治めるのか」（創世記 37：7～8参照）

ヨ

セフに対する彼らの敵意は、ヨセフが正しく、神とともに歩んでいるために、ますます大きなものとなった。聖典は、「ヨセフが彼らに近づかないうちに、彼らははるかにヨセフを見て、これを殺そうと計り、互に言った。『あの夢見る者がやって来る。さあ彼を殺して穴に投げ入れ、悪い獣が彼を食ったと言おう。そして彼の夢がどうなるか見よう』」と述べている。（創世記 37：18～20）

最

年長の兄弟ルーベンは、彼の生命を助けるように説いた。彼らはヨセフを穴に投げ入れ、ユダのすすめで、イシメル人の商人の隊商に奴隷として彼を売った。ヨセフはエジプトへ連れ去られた。

ヨ

セフは侍衛長の家で仕えたが、悪人に捕われて獄に入った。神の目によしとされた彼は、牢獄から出され、パロに愛され、この地の強力なつかさとなり、パロに次ぐ者となった。イスラエルの子らは、飢饉で滅びようとしていたとき、エジプトが豊かであることを聞いた。ヨセフの賢明な監督の下に、あらゆるものが貯えられていたからである。それで兄弟たちは、ヨセフがかつて見た夢のように、ヨセフのところに来て彼を拝した。ヨセフのためにイスラエルの家は無事救われた。

イ

スラエルの子らは、選ばれた最高の祝福である家督権を与えられた。この祝福は、長子が忠実な時にのみ与えられた。ルーベンはヤコブの長子であったが、罪によ

ってそれを失ない、家督権は、イスラエルの息子であるヨセフの子らに与えられた。なぜならヨセフがもっとも忠実だったからである。

父 であり祝福師であったヤコブは老年になって子供たちを祝福した。ヨセフとその子孫に、彼はより大きな祝福を与えて約束した。彼が必らず繁栄し、すべての試練に耐えて、栄え、またその遺産は、とこしえにそびえる山の頂きへ広がる。

ヤ コブは、ヨセフの息子、マナセとエフライムに、あたかも二人が自分の息子であるかのように、イスラエルでの分け前を与えた。彼は、父ヨセフに「彼らをつれて来なさい。私は彼らを祝福しよう」と言った。

「すると、イスラエルは右の手を伸べて弟エフライムの頭に置き、左の手をマナセの頭に置いた。マナセは長子であるが、ことさらそのように手をおいたのである」

(創世記 48:14)

ヨ セフは父の考えていることがまちがっているのに気づいた。それで父の手を変えようとして言った。「そうではありません。おとうさま。これが長子ですから、彼の頭に右手をおいてください」と。父ヤコブはことわって言った。「わかっている。子よ、わたしにはわかっている。彼もまた一つの民となりまた大いなる者となるであろう。しかし弟は彼よりも大いなる者となり、その子孫は多くの国民となるであろう」(創世記 48:17~19)

そ れで彼はマナセの前にエフライムをおいた。エフライムの子供たちは、父ヨセフのようにとらわれて、多くの国々の民にまじった。しかし「長子」として、すなわちその世を継ぐものとして、彼らは末日において福音の真理を受けるために先ず最初に集められる。彼らは、血統の権利と信仰によって神の権能を持つ。彼らは救いの教を地上の国々へ広め散乱されたイスラエルを集合させる。彼ら

は、希望ある救いのメッセージとレーマン人に救いをもたらすモルモン経を持つ。また主の神殿において、より高い神権の祝福を受ける鍵を持つ。イスラエルの民は、彼らの先祖が、祝福を受けるためにヨセフの前に来たように、末日においてエフライムの子孫の手で栄の冠を受けて北の国からシオンへと集合するだろう。(教義と聖約 133:22~30参照)

ブ リガム・ヤング大管長は、エフライムの子孫が末日において占める位置を理解していた。彼は次のように述べた。「これが私たちが探しているイスラエル家の人々である。彼らが東から来ようと西から来ようと、北から南から来ようとかわらない。中国からロシアから英国から、カリフォルニアから、北及び南アメリカから、或いはその他の地方から来ようと問題ではない。彼らは父ヤコブがイスラエルの家を救うために手をおいた若者その人である」と。

(講話集 2:268)

こ れらの真理により、私たちは予言者オバデヤが次のように述べたとき何を言わんとしていたかを理解できる。「しかしシオンの山には、のがれる者がいて、聖なところとなる。またヤコブの家はその領地を獲る。……こうして救うシオンの山に上ってエサウの山を治める。そして王国は主のものとなる」(オバデヤ書 17, 21)

こ の福音のもとに集められている私たちイスラエルは、血統と正しい行いによって約束された神権をもつことができるエフライムの子孫である。私たちはエジプトに対する父ヨセフの如くに、末日においてイスラエルの救い手となるためにすべての国から集っている。私たちはシオン山の救い手であり、イスラエルが信仰ある者に約束された栄光を受けべくあがなわれ聖められ準備されるように先祖のため福音の神聖な救いの儀式を行うのである。

これら教義のすべては、主の家と固く結び付き、また同じ血統の死者を救うための働きと結び付いている。

まことに父は異邦人とイスラエルの家について多くの話をしたが、それはイスラエルの家はその枝が折れて全地の上に散る一本の、「かんらん」の木にたとえられる。それであるから、全地の上に散ると言う主の言葉がほんとうになるために、私たちは一しよになって約束の地へ導かれて行くにちがない。そしてイスラエルの家は散ってからまた集り合うであろう。つまり異邦人が完全な福音を受け入れてから「かんらん」の木の元の自然の枝であるイスラエルの家の残る者たちがまた親木に接されるであろう。すなわちかれらの贖い主であってかれらの主であるほんとうのメシヤを認めるようになると言った。

ニーフアイー書 10:12-14

主の御国におけるしもべたち

使 徒 教会の大祝福師 十二使徒評議員会補助 七十人最高評議員会 管理監督会

教

教会の大幹部は世界の至るところで聖徒たちに愛され尊敬されています。彼らは現在この地における主の御業を指導し助けるよう主によって選ばれた人々であります。私たちはこれら23人の兄弟たちの伝記をここに掲載できることをうれしく思うものであります。

○教会の大祝福師

1839年6月27日、予言者ジョセフ・スミスはかなり長い間兄弟たちと話し合った後次のようにいわれました。

「エバンジェリストとは、正にヨセフの血統の最年長者かアブラハムの子孫の最年長者であり、祝福師（族長）である。キリストの教会がこの地に建てられるときはいつでも、ちょうどヤコブが息子たちに祝福師の祝福を与えたように、聖徒たちの子孫の福祉のために祝福師が居るはずである」

（DHC 3巻 381頁）

予言者の父、ジョセフ・スミス（初代）は1833年12月18日に教会の大祝福師に聖任されました。祝福師の血統の直系子孫としてエルドレッド・G・スミスが現在その職に在ります。

十二使徒評議員会補助

1941年4月の一般大会で、ルーベン・クラーク（二代目）副管長は幹部の名前を読み上げて支持を求めた際に次のように述べました。

「最近の教会の急速な成長、新しいワード部、ステーキ部の絶え間ない増設、ワード部やステーキ部で埋められた地域の

広がり、神の福音がすべての人々にもたらされるための量的質的な伝道活動の活発化にともなう印刷物の増加、よりしっかりした活動における教会の役割の充実、管理、指導などすべては偉大なしもべたちの奉仕によって築きあげられている。大管長会及び十二使徒は、彼らの偉大な責任を十分に熟知し、効果的に主のために働くように、助けを受けなければならぬと、感じている。従って十二使徒補助を任命することが定められた。彼らは大祭司として、大管長会や十二使徒が行うような仕事をするために十二使徒の指揮の下に働き始める。これら十二使徒補助の数に限定はない。主の御業がより賢明に行なわれなければならない場合、時宜に応じてふやされるだろう」

（インプルーヴメント、エラ1941年5月号 269頁）

現在は12人の補助がいる。

七十人最高評議員会

教義と聖約 107 章の神権に関する偉大な啓示として主は次のように述べられた。

「また、福音を説き異邦人と全世界の人々に対する特別の証人たらんがため『七十人』召さる。すなわちかくの如くこの者たちの天職に就ける義務は、教会に於ける他の職員らの義務と異なる。またこの『七十人』は、今挙げたる十二人の特別な証人、すなわち十二使徒と等しき権能を有する定員会を構成す。

……………『七十人』は十二使徒会すなわち巡回高等評議員会の指揮の下に教会を設立し、またよろずの国民に於ける教会

のあらゆる事務を整理するに主の御名によりて行い、まず異邦人より始めて次にユダヤ人に及ぼすべき者たちなり。

（教義と聖約 107 章25～26, 34）

七十人最高評議員会

七十人定員会は特に伝道活動の召しを受けて、組織されている。

「また『七十人』の数の中より選ばれたる七人の長ありてかれらを統轄すべきことは、『七十人』の神権を示せる示現による。（教義と聖約107：93）のである。これが七十人最高評議員会である。

管理監督会

「管理監督会定員会には管理監督と二人のカウンセラーがいる。この三人は皆監督であると同時に、大祭司である。彼らはアロン神権を管理し大管長会の指揮で教会の物質的なことに関することがらを指導する。また什分の一、会員の転籍証明、会計報告、その他の報告を取扱う。

（ジョン・Aウイットオ「教会のプログラム」156頁）

以上、諸評議員会の責任について簡単に述べて来ました。これらの召しに支持されている兄弟たちについて読んでいただきたいと思います。



アルヴィン R・ダイヤー
(使 徒)

ひ たむきにおうせいな活動と主の御心を
行いたいという強い願望が、最近新ら
しく使徒となった彼の人となり特徴づけて

いる。アルヴィン、R・ダイヤーは1903年
1月1日にソルトレーク市にアルフレッド
及びハリエット・ウォルシュ・ダイヤーの
息子として。高校時代とその後数年間は
常勝の野球チームで活躍し、しばしば出演
を頼まれてクワルテットで歌った。

ダイヤー長老は東部の州で伝道したが、
そこで地域リーダーとなり1923年には第一
回のクモラページェントで大きな役割を果
たした。1926年6月にメイ・エリザベス・
ジャクソンと結婚し、二人の子供に恵まれ
た。金属工業関係の技術者として働いた
ことは次の彼の経歴の成功を準備した。建
築資材会社の熱及びエアコンディション部
を担当し46歳の時に会社を設立した。事業
経歴を見ると、彼はエキスチェンジクラブ
の会員であり、アメリカ光熱及び換気技術
協会の会員であった。第二次世界大戦中ア
メリカ軍事技術部門に就いて文官の技術顧
問として働いた。しかし主に対する奉仕
は常にダイヤー兄弟の胸中によるこびとして
あった。ほぼ六年間はソルトレーク市のモ
ニュメントパークワードの監督であった。彼
はそれ以前にも二つのワードの監督であり、
二つのステーキ部の高等評議員だった。監督

として奉仕中、彼はセントラルステーツ伝道
部を管理する召しを受けた。

事業への関心をふり払って彼は伝道活動へ
と参加し、新しい興味をそこに見出した。
ミズーリ州における教会とその人々の歴史に
関して自身の心を満たすために、ダイヤー長
老は自ら探求し膨大な分量の著書を完成し
た。それは後にまとまった本として出版され
た。以来ダイヤー長老は福音の主題に基づい
て7冊の本を書いている。

1958年に、YMMIAの管理会長会副会長
に任命されその5ヶ月後に、ダイヤー長老は
十二使徒補助に召された。後にヨーロッパ伝
道部を管理するために召され、そこで二年間
働いた。帰国後、たくさんの責任が与えら
れたが、そのひとつは神権ホームティーチン
グプログラムであり、これを直接的に援助し
たのである。

1967年10月5日、ダイヤー長老は使徒に任
命され、救い主の福音伝道の証人として使徒
評議員会の会員と協力して働くことになっ
た。彼の強力な指導性としかも謙遜な心は彼
を主の腕ともいふべき価値あるしもべにして
いるのである。

教

会大祝福師の職は神聖な召しである。
それは大管長の靈感によりそれを受け
るに値する人に与えられる世襲の召しであ
る。

エルドレッドG・スミスはこの神権時代の
教会の第七代の祝福師である。日頃彼は聖徒
たちの霊的要求について思いをはせ、もし受
け入れる人が謙遜で価値があるなら実りある
生涯において達成できるであろう道を示す偉
大な個人的声明である祝福師の祝福を与えて
いる。

エルドレッドG・スミスは、ハイラムG及
びマーサジィ、スミスの息子としてユタ州リ
ーハイで1907年1月9日に生まれた。五歳の
とき、彼の父は教会の管理監督祝福師に支持
され家族はソルトレーク市に移った。エルド
レッドは公立学校で教育を受けLDS高校に
通い、ユタ大学では工学を学んだ。

1926年、彼はスイスドイツ伝道部で働ら
くよう召しを受け1929年解任されると、ソル
トレーク市のリバティステーキ部のステーキ
伝道部で働いた。

スミス長老は、1932年8月17日ソルトレ
ーク神殿でジーン・ネスと結婚し、彼らは二人
の息子と三人の娘の両親となった。

どんな責任でも召されたときには主に献身
する彼は1936年11月にエンカインステーキの
YMMIA会長会の一員となり、1938年5月
5日にはソルトレーク市の第20ワード部監督
会の第二副監督に支持された。彼は間もなく
エンカインステーキの高等評議員として奉仕
した。北20ワード部が1941年に作られたとき
彼はその監督となった。

1944年1月、彼はテネシー州のオークリッ
ジにおいて原子力機関で働らく戦時召集を受
けた。そこへ行く途中彼はケンタッキー州ル
イスビルの伝道本部にとどまり、そこで奉仕
することを申し出た。オークリッジに着いた
とき、原子力計画の秘密事項により、ミタ
リイホールで開かれる聖徒たちの集会に出席
することを許可されなかった。それで彼は家
庭に教会の会員を招いたが、その集会に使う
テーブルや椅子の代りに箱が用いられた。そ
の集会は35人の子供と65人の成人が出席す
るまでに大きくなった。オークリッジ支部はこ
のようにつくられ、スミス長老は支部長とな
った。

第二次世界大戦後、彼はソルトレーク市へ戻
った。1947年4月6日、一般大会で彼は教会
大祝福師に支持された。



エルドレッド G・スミス
(教会大祝福師)

以来彼は文字通り何千という祝福を与えて
来た。彼はあらゆる地からくる会員と相談し
ながら教会の本部建物の机にむかい毎日多く
の時間を費やしている。



アルマ・ソネ
(十二使徒評議員会補助)

19 41年8月大会の際立った特徴は、ルーベック・ラーク副管長が述べられたような責任を遂行するため十二使徒評議員会補助が召されたことであった。その中にアルマ・ソネがいた。ソネ長老は、ニール・クリスチャンとエライガ・ピーターソン・ソ

ネの間に1884年3月5日ユタのローガンで生まれた。1904年ローガンにあるブリガムヤング大学を卒業後、彼はローガン第一ナショナル銀行で働いた。1910年から1912年まで彼は英国で伝道し、そこで移民の世話、仕事、交通、運輸などをした。英国から帰って、彼は1912年5月ジェネバ・バレンタインと結婚し、4人の息子と1人の娘に恵まれた。1941年に妻に先立たれレオナ・バレンタイン・ウーリイと結婚した。ソネ長老は、北部ユタ州の事業及び農業の発展に重要な役割を果たした。彼はローガンにある。第一ナショナル銀行の頭取であり、ユタ州立大学の信託保管人の一人である。ソネ長老が1946年にロンドンのヨーロッパ伝道本部を管理するよう召されたとき、ある人が彼に次のように尋ねた。

「どうして行かなければならないのです？ ヨーロッパの人々を救うことも本国でそうすることも同じではないですか？」ソネ長老は答えた。

「それは信じることに関係があると思いますね。我々が何を信じているかということは非常に大切です」と。そのとき、彼は青年のとき父に尋ねたことを思い浮べていた。彼は

こう聞いたのだった。「どうしてお父さんは教会に入ったのですか？」と。彼の父はしばらくためらいそして言った。

「それは、モルモン経を読んだからだね」と。これが神の御言葉であるという確信で、彼の父はバプテズマを受けたのだった。ソネ長老は、幌馬車隊の後をカウンスル・ブラフスからユタのカッチ渓谷へと荒野を横切って歩いた母のことを思い浮べていた。「なぜ？」長老は尋ねた。教会が真実だとわかっているからです。母はそう答えたのだった。

同様の確信がアルマ・ソネの非利己的な献身と奉仕を特徴づけている。数々の個人的な証詞を述べるとき彼は真摯であるが、このように述べるときはことさらである。

「人間より重要なものはない」と。

彼はステーク部YMMIA会長として奉仕し、同じくステーク部高等評議員カッチステーク部長会のカウンセラーとして働いた。彼は、十二使徒評議員会補助に召されたときは、カッチステーク部長でありカッチ福祉地区長であった。人間に対する愛と福音に対する愛がソネ長老の人生を形成している。彼は言う。「人と国家の唯一の絶対誤りない先導は、イエス・キリストの福音である」と。

十 二使徒評議員会補助としてのエルレイ・L・クリスチャンセン長老の霊的強さと誠実さは多数の人々の生活に良い影響を与えている。なぜならば彼は教会や、市民社会や文化、教育方面で活躍し、多様な人生を生きて来ているからである。

クリスチャンセン長老はパーリクリスチャンセンとドロシア・C・ジェ・セン・スカウ・クリスチャンセンの間に、ユタ州メイフィールドで1897年7月13日に生まれた。彼はユタ州立農業大学で農業経営学を専攻し、ユタ大学及びブリガムヤング大学で大学院課程を続けた。彼自身、農業家及び農地所有者として、アメリカ連邦政府のために、土壌調査や牧草地踏査を指揮した。彼の最も大きな充実感、専門的教育者として若い人々を教えることから得られた。彼は学校で、宣教師たちとともに立派に若者たちを教えたが、スカウト指導者としても傑出しており、教会の神殿で奉仕することはとりわけ長かった。1922年6月14日、彼はマンタイ神殿でレウェラ、リースと結婚し三人の子供に恵まれた。1924年にクリスチャン家は、中央州部伝道への召しを受けた。このようにしてクリスチャン長老の長い教会奉仕活動が始められた。間もな

く、イーストジョーダン・ステーク部で、ステーク部日曜学校監督会で働いた、また高等評議員として、あるいは、ドラッパー・ファーストワード部の監督として働いた。1936年彼は教会学校問題に関係しユタ州ローガンに移った。

19 37年彼はテキサス・ルイジアナ伝道の伝道部長に召された。四年後ローガンに帰り、カッチステーク部長会の第一副ステーク部長に支持された。1943年から1952年まで彼はローガン神殿の神殿長であり、この四年間に、彼はまた東カッチステーク部の第一副ステーク部長として働いた、その後ステーク部長になった。1951年10月6日に、彼は十二使徒評議員会補助に召された。この職にあって彼は教会福祉委員会の予算委員会議長として奉仕し、8年間にわたってソルトレーク神殿長でありロンドン神殿建立のために召されてそれを助けた。1961年、大管長会の指揮の下で、すべての神殿の最高責任者となった。加えて彼は四つの南東アメリカ伝道部の地域責任者である。

彼のすべての仕事において、クリスチャンセン長老は尊敬されている。彼が大会で十二使徒評議員会補助に召されたとき、次のよう



エルレイ・L・クリスチャンセン
(十二使徒評議員会補助)

に強調した。本当の証詞は良き働きと共になくてはならないと。確かにこれが彼の人生の基盤であり、彼はこの確固とした証詞を通して常に良き働きを求めて前進をつづける、力と団結の人なのである。



ジョン・ロングデン

(十二使徒評議員会補助)

回復された教会の初期の時代に、主は予言者ジョセフ・スミスに啓示を与え給い次のように述べられた。

「正しき者の歌は我に対する祈りなり」と。

十 二使徒評議員会補助ジョン・ロングデン長老は、彼が旅行する時はいつでも文字通り聖徒たちの心にしみ通るような歌を歌う。天与の歌い手として、教会の指示があれば聖徒たちを訪問し世界の多くのところでそこに集う人々に彼の音楽的才能を分け与えている。ロングデン長老は、1889年11月4日、英国のランカシア、オールドハムに生まれた。彼の両親、トーマス・J・ロングデン及びリゼッタ・テイラー・ロングデンが教会に加入したとき、ジョンは10歳であり、家族はユタ州へ移住した。彼はL・D・S高校に入学し、経済大学で学び後にユタ大学で学んだ。

彼の音楽的才能は、初期に認められ、音楽と演劇を学び、二つの劇場を持つ興業会社の一員であった。1921年彼は中央州部伝道部へ召され、帰って間もなく事業家としての経歴を始めた。最初は保険会社、次は電気器具製作会社であった。彼はソルト・レーク市にあるウェスティングハウス・エレクトリックサプライ会社の支配人となり重役の階段を着実に昇った。1952年にナショナルエレクトリックプロダクトの地域支配人となり、1960年に退職するまでこの地位にあった。

1924年10月15日、ロングデン長老はソルト

レーク神殿でフランシス・ラーリユーカーと結婚し、二人の娘に恵まれた。ロングデン姉妹は13歳の時にYWMIAの会長会の第二副会長になり奉仕したことのある人である。ロングデン長老は、常に教会に忠実によりこんで奉仕する時間を見い出して来た。彼はソルトレーク市の第19ワード部の監督に召される前、ワード部MIAの副会長でありステーク部MIAの会長であった。それから17年間ステーク部高等評議員として奉仕し、1950年に教会福祉委員会の一員となった。1951年10月、十二使徒評議員会補助として働らくよう召しが来た。最近の大会で、ロングデン長老は、若い時代にランカシアのオールドハムの小さな、トタン板を張りめぐらした集会場で集会を持ったことを語った。それから56年後に、彼はオールドハムの美しい礼拝堂を献堂するために生まれ故郷へ戻る特権を与えられたのである。ロングデン長老は瞑想して述べた。

「56年前、それはきのうのようです。月日の経つのはなんと早いものでしょう」と。そして、彼はまた「今この目に見ることのできるのはその豊かなみのりだけだ」とつけくわえた。

スターリング W・シルの若い時代のひとつの強烈な経験は、彼の後の人生にひじょうな影響を与えた分れ目となった。彼は、日曜学校で、手引からの一節を復唱するよう求められた。立ち上がって話そうとしたとき、12歳の若者はうろたえた。涙が顔を伝い、復唱することができなかった。その同じ日他の一人の若者が落着き払って、シル長老が思いたそうと苦心していることをやってのけた。そのような時にもすでに彼の人生には導きの手がのべられていた。なぜなら祝福の中で彼はこう言われたからである。

「主の目はあなたに注がれ…… あなたの舌は驚く程ゆるまるであろう」と。

彼はジョセフ・シルとマリエッタ・ウエリグ・シルとの間に、ユタのレイトンで、1903年3月31日に生まれた。彼はいまだに臆病が彼を悩ませたことを思い出す。それは南部州伝道中もそうであった。彼はユタ大学において学んだ後、ソルトレークで保険の仕事に就く前に二年間学校で教えた。彼の妻ドリス・メリー・ソーンリイの絶まざる力づけと協力には彼の自信を強めることに大きな力となった。(彼らには三人の子供がいる)。

彼は職業においても前進を見せ、1933年に

彼の会社のソルトレーク市支配人となり、1940年には監査人となり、今日に至るまで名誉職としてその地位にある。29歳の時、彼はナショナル生命保険業者協会で最初に演説したユタ出身者であった。1936年、彼はガーデンパークワード部の監督に召された。それから間もなくステーク部大会があり、話すことを頼まれるかも知れないと思って、ある話を準備したが彼は依頼されなかった。次の大会の時も彼は他の話を準備した。だがその時も彼は頼まれなかった。それから十年間も続けてシル監督は話を準備した。しかし大会では一度も機会は与えられなかった。主は、彼をこのように大いに訓練した。1951年彼は日曜学校管理会長の一員となり、1954年4月に十二使徒評議員会補助に召された。1959年の月曜日夕刻の教員会ラジオ番組で12の話を伝えた後に、それを不定期に放送するよう依頼され、過去八年間、450の局を網羅する国中のラジオ番組に30分間、そして毎週15分間の話を準備し放送して来た。毎月4,200部もの手紙が聴衆者から舞い込み、次のような感情を吐露している手紙もある。

「私は、この話のために教会に加入しました」と。あるいは

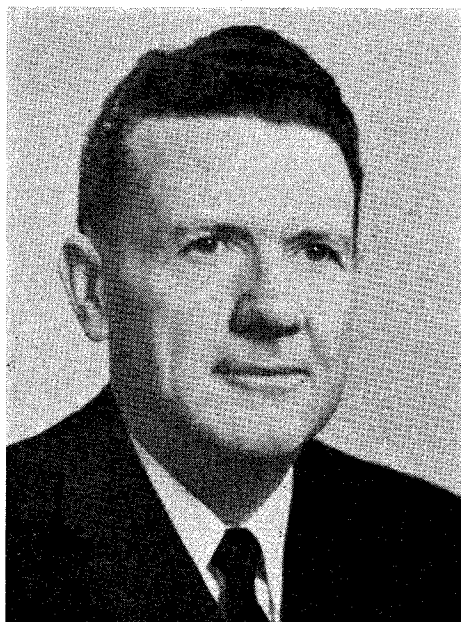


スターリング W・シル

(十二使徒評議員会補助)

「あなたは私の人生を変えました」と。また「なんと秀れたモルモンの指導者なのでしょう」と。

このように主に仕える彼の才能は40年間の準備の結果であった。数年前から彼は自分の思想をまとめ始めた。彼は今その21のスクラップブックを編纂している。彼は我々の時代の福音の偉大な代弁者なのである。



ヘンリー D・テイラー

(十二使徒評議員会補助)

19

58年4月に十二使徒評議員会補助に召されたとき彼について人々は言った、「彼が高い地位に就いたのは当然なことであつた」と。
彼は1903年11月22日アーサー N・テイラ

ーとマリア・ディクソン・テイラーの間に生まれた。ユタのプロボーであるが、この農場生活は彼の幼年期を訓育し、彼の指導精神を育んでいった。彼の家庭の豊かな遺産を思い出しながら、テイラー長老は、大会で、

「私たちが一人で生きていくべきであるとは思いません。一人でなく共に成長する時により良い個人となることができるのです」と述べた。

東部州伝道部で働いた後、彼は1929年にブリガムヤング大学を卒業し、1937年にニューヨーク大学で修士の学位を得た。彼がディクソンテイラーラッセル会社の副支配人であったプロボーでテイラー長老は商工会議所、キワニスクラブ、ユタバーレイ病院会議などの公職に就いて働いた。1929年12月26日、彼はユタでアルタ・ハンセンと結婚し、四人の息子が生まれた。ワード部やステーク部での働きをテイラー姉妹はか

いがいしく知的に夫を助け、その機会と成功とを分け合った。彼女は1967年6月6日に逝った。

「静かなる発電機」と評せられたように、テイラー長老は彼の兄弟たちを導く使命が与

えられていた。彼は国の要職に就き、高等評議員であり、ステーク部書記であり、プレザント・ヴィユー・ワード部の監督として働

き、シャロン及び東シャロンステーク部の部長として働いた。十二使徒評議員会補助となるために召されるとき、彼はカリフォルニア伝道部長として働いていた。今教会福祉プログラムの総支配人として働

きつつ、テイラー長老は、タイムパノゴス及びセントラルユタ福祉地域の議長としての経験をふくめて、福祉事業での長い広い経験を生かしているのである。テイラー長老は、同胞に対する愛と同情とをもって福祉計画を十分なしかも不動の回復された福音に対する信仰と、強靱さと忍耐でもってすすめている。この計画について彼は次のように述べている。

「この計画の目的を遂行することは、この教会のすべての会員が互いに結ばれ、神の王国に所属しているという所属感と、兄弟としての一致をもちながら、共に参加し共に働くことであります。

と父なる神に対するゆるぎない信仰による物静かでありながら確固とした指導性と卓越した実践力が、ヘンリー D・テイラー長老を特徴づけている。

第

一次世界大戦中 ウィリアム・ジェームズ・クリッチロウ(二代目)は、USコーストとジオデディックサーベイに執務中たった一人山頂に配置された。そこで彼はモルモン経を読む時間を見い出したのである。

「私は福音を受けつぎ、私の教会員としての自分は私がバプテスマを受けるに足る年齢になったときに当然のこのようにやって来た。しかしそれは疑いもなくあの山頂で、モルモン経を読みその真实性を神に尋ね求めたことからもたらされたものである」と彼は思い出して述べる。

この証人は熱情と確信に満ちて生まれて来た。特に1958年10月に十二使徒評議員会補助に任命されて以来はそうである。

彼は1892年8月12日 ウィリアム J・クリッチロウ及びアンナ・クリッチロウの息子としてユタ州オグデンに生まれ、ずっとそこで過ごしている。高校卒業後ウエバーアカデミイに入学し、1911年に学生委員長として、共同社会に恒久に奉仕できるようなステージを設備した屋内運動場を建てるキャンペーンをくりひろげた。何年も後に彼の夢は実現し、それが建てられた。それが教会の手に戻

り1967年6月にデゼレト屋内運動場として改築されたとき、1911年に先鞭をつけた彼はその献堂の祈りを依頼された。

事

業家として準備するために、シカゴのラセール、エキステンション大学に籍を置き、またユタ大学でも講義を聴いた。

ク

リッチロウ長老は1912年に電力業界に入ったが、最近の政府関係の仕事を除けば、彼は事業拡張支配人として退職するまでユタ電力会社の種々の重役職をつとめて来た。彼は、「人生に於ける真の成功はその家族によってはかられる」

と述べた。彼は1924年にソルトレーク神殿でアンナ・マリア・テイラーと結婚し二人の息子と一人の娘に恵まれている。

彼のオグデンにおける影響は深いもので、数多くの地域団体や市民クラブで献身的奉仕をしている。彼は「オール フェイセズ ウェスト」ページエントの創設者であるが、それは毎年グレートソルトレーク峡谷へ開拓者の旅を再現するものである。この計画は彼にとって特に重要な意味がある。なぜなら彼の祖父ジェームス・ブラウンが、モルモン大隊の指揮者でオグデン創設者であったからである。



ウィリアム J・クリッチロウ

(十二使徒評議員会補助)

彼

は、人生におけるよこびは、奉仕によって、それも教会への奉仕によって生まれるものであることを信じている。彼は1958年10月に十二使徒評議員会補助に召される前は多くの補助組織の責任にあり又、南オグデンステーク部の部長であった。



フランクリン D・リチャーズ
(十二使徒評議員会補助)

教会の指導者に従いなさい。そうすれば決して奉仕の機会を失わないだろう」彼が両親と相談した際の言葉であるが、これがフランクリン D・リチャーズの哲学とな

っている。彼はその人生を社会と国家と教会に献げて来たのである。

リチャーズ長老は、1900年11月17日ユタ州オグデンで、チャールズ C・リチャーズとレディッター・ピアリイ・リチャーズの息子として生まれた。少年のとき討論会や学校での出版活動に参加すると同時に、学校の費用を稼ぐために父の農場で働くなど、勤勉であった。

彼はオグデンのウェバーアカデミイを卒業しそれから東部州伝道部へ召される前に、ユタ大学で学んだ。帰ってから、1923年に大学で法律を学びソルトレークで法曹界に入った。1923年8月1日にソルトレーク神殿でヘレン・カーンズと結婚し二人の息子と二人の娘に恵まれている。

リチャーズ長老は1934年に連邦住宅省の初代ユタ州監督に指名され後に、ワシントンの本部と13の西部州の地域顧問に指名された。

1947年に彼はFHAの(連邦住宅省)顧問に指名され、その任期中、国は歴史上最も大きな住宅問題改善を増進させることに成功した。1952年FHAを退職後、ニューヨーク、ワシントン、ソルトレーク市で抵当

銀行業と仲介業を始め、1954年にユタ州へ戻った。

青年のときに、リチャーズ長老は祝福師の祝福を受けたが、その中で、彼は「部長会の仕事を持つよう召され、聖なる指導力を持つように望まれ、市民社会においても地位ある職に就くであろう」と祝福された。

この約束は、真実なものとなっている。なぜならば、公共的に地位ある役職に就くと同時に彼は神権定員会の指導者となり補助組織の指導者となったからである。

リチャーズ長老は、1659年東ミルクリーク・ステーク部伝道部の部長として奉仕していたが、その年北西部州伝道本部を管理するように召された。そこで彼は教会の最も実りある伝道地域を指揮し、宣教師が用いる最も効果的な教授プランを進展させた。1960年10月8日、伝道部長になってちょうど10ヶ月後に、彼が十二使徒評議員会補助として召されたことが一般大会で発表された。

彼の伝道活動は続けられている。というのは、彼の管理する責任は合衆国の東海岸の伝道と、ごく最近では南米の伝道をも管理する責任が含まれているからである。

彼は神権系図委員会の監督と同時に副委員長として働いている系図協会の職員たちは、パートン長老を「正直、愛、献身、福音に対するゆるぎない忠誠心」をもった謙遜な人と述べている。パートン長老は、これらの特性を人生の初期から発展させている。彼は1907年3月27日、セオドア・テイラー・パートンとフローレンス・モイル・パートンとの間に生まれた。彼の両親は12才の時から働くよう励ました。彼らについてパートン長老は次のように述べている。「彼らは機会を備え福音を教えてくれたが、その励ましはまさしくソルトレークの我が家において彼らが模範として生活したことによる」と。彼はユタ大学で学士と修士の学位を取り、パーデュ大学で化学の博士号を受けた。1932年から1934年まで、彼はソルトレーク市で細菌学者として過ごした。間もなく彼は、ユタのプライスにあるカーボン大学の著名な化学の教授となり、ローガンにあるユタ州立大学でも教鞭をとった。パートン長老は、自分の化学の勉強が神の法律に対して、より感受性を豊かにさせることの助けとなったと信じている。「私の論証は強められて来ております。なぜなら、科学において私は秩序を理解する

よう訓練されました。私たちの宗教では、神は私たちの生活に真理を適用することで、自ら証明することができる確かな真理を与えて下さいます」と彼は述べている。

1927年から30年にかけて、パートン長老はスイス、ドイツ伝道部で宣教師として働いた。後に、彼はローガンで監督及び高等評議員として奉仕した。1957年彼は、西ドイツ伝道部を管理するためにヨーロッパへ戻った。彼とともにいる妻のブリース・パートンとは1933年2月23日にソルトレーク神殿で結婚した。彼の息子ロバートはスイスでの伝道を終えた。1962年ヨーロッパ伝道部長となる前、パートン長老は、1960年10月9日に十二使徒評議員会補助に任命された。1965年6月、彼は西ヨーロッパ伝道部の監督をするようになった。彼は次のように述べている。「来世では、どれだけ多くの地位をあなたが受けたかではなく、どれだけ多くの人々をあなたが助けたかが問題になるでしょう」と。

また彼の系図の仕事に関して、「イエスがなされたことは私たちの働きや犠牲を通してどのように他人に奉仕できるかを模範としてお示しになって下さったことです。私たちの死者の救いのための仕事におい



セオドア M・パートン
(十二使徒評議員会補助)

で、私たちは救主に従い、自分を救うことができない人々のために、私たち自身が救い手とならなければなりません」と述べている。

彼の行ないに比べれば、このようなことは僅少に過ぎない。彼については、こう言われている。

「彼は神の王国に自己の忠誠を誓っている人だ」と。



ボイド K・パッカー

(十二使徒評議員会補助)

イ ラW・パッカー及びエンマ・ジェンセン・パッカーの11人中10番目の子供として、ボイド・パッカー長老は1924年9月10日に生まれた。その家庭はお金以外はあらゆるものに恵まれていた。彼は回復された福音

を家族ぐるみで日常の宗教として受け入れている中で教育された。福音は確かに家庭をバラのように花咲かせていたのである。

高等学校中に、真珠湾が国家を戦争へと引きずり込んだ。卒業して直ちに、彼はユタ州のブリガム市でブッシュネル総合病院建築の請負をして働いていた。彼は空軍の予備役プログラムに参加し20才の時にパイロットとして卒業した。その寂しい宿舎で、彼は祈り真心で涙しながら、人生の真の目的を追求することに成功し、誘惑に抵抗することができたら、自分を主にお捧げすることを約束した。その後の訓練も終えて、彼はハワイに配置され、それからフィリピンへ転属した。1945年10月彼は日本へ送られそこでの暇な時に彼は他の軍人とともに日本人に福音を教える機会を持った。

兵 役から解放されると、彼はウェバー大学とユタ州立大学で教育を受け、教育学士と修士号を得た。彼はドンナエディス・スミスと結婚し9人の子供に恵まれている。

19 48年、ジョージ・アルバート・スミスは、ボックス・エルダータバナクルで

あるインデアン学校を建てるためにブッシュネル病院を維持している市民たちを励まし、そこに出席している人々がこの計画を全身こめて行なうなら祝福されるということを約束された。

パ ッカー長老は、他の人と同様に、これを個人的なチャレンジと受けとめた。1948年に最初のインディアンの学生グループが到着したとき、パッカー長老は、セミナー指導者の一人であったが、J・エドウィン・ベアードは、これら学生のための教会プログラムを発展させるよう指名された。このような小さな端緒から、インデアン・セミナープログラムが始められ進展し、現在は教会を通じて行なわれている。

パ ッカー長老は1961年10月に十二使徒評議員会補助に支持された。そのとき、彼は宗教セミナーの監督であり博士課程で勉強し博士号を1962年6月にブリガム・ヤング大学で受けた。

1965年8月から彼はニューイングランド伝道部を管理している。

パ ッカー長老がかつて主に己れを捧げますと約束したことは、教会の青年教育への意義深い献身をすることとなっている。

バーナード D・ブロックバンクの人生と人格には、明らかに伝道活動の精神が見られる。彼が大きくなってからは、福音を述べ伝えることにその人生は捧げられた。彼が話すとき、それは、熱意にあふれ、主の御業を愛しすべての同胞に福音を分け与えたいと願う確信に満たされている。彼は1909年5月24日に、ユタ州、ホーラデいで、ティラー・Pとサラシチミナントの息子として生まれた。彼はユタ州立農業大学に入り、又ユタ大学及びジョージワシントン大学で学び、その研究は、英国伝道部に召された1929年に中断された。そこで一年間地方部長であり、彼の最初の伝道活動を始めたのである。彼はまた1934年から35年にかけて、ワシントンでステーキ部伝道に従事し、その間また学校に通った。1935年11月1日に、ナダ・リッチと結婚し、5人の息子と一人の娘に恵まれた。

ブ ロックバンク姉妹は、1967年8月1日になくなった。ソルトレーク市の建築家としてよく知られた彼は、社会においても建築界で活躍しており、ソルトレーク不動産理事会の会員であり、ユタ州建築協会の会員でもある。また同時にグラニットスクールのかつての校長でもあった。彼が住むところはど

こでも教会の召しを受け、それにはソルトレークのウインダーワード部の監督だとかステーキ部高等評議員であるとか、ホラデイスターキ部長であるとか、ジョーダンバリー福祉地区の議長であるとかの責任が含まれる。伝道活動に対する大きな愛は、1960年から実りのあるものとして報われた。その時彼は、北英国伝道部の伝道部長に召された。伝道部が1960年12月に分けられたとき、彼は新しいスコットランド及びアイルランド本部の伝道部長となり、18ヶ月後に新しいスコットランド伝道部が開設されその部長となった。1962年10月、十二使徒評議員会補助に召されたときまで、その職にあった。1967年にニューヨーク世界博覧会で、モルモン館が開かれたとき総指揮者がブロックバンク長老であり、彼の宣教師としての熱意や情熱は、彼の指揮の下で働いた多くの宣教師に感銘を与えた。何百万人という訪問者が、このようにして回復された福音に接したのである。世界博の閉幕以来、彼はビジターズセンターにある展示場を準備する仕事に召され、世界博で成功したいろいろな考えを取り入れており、福音の真実性を多くの人々に教えるために、今やなくてはならない人である。



バーナード D・ブロックバンク

(十二使徒評議員会補助)



ジェームス A・カリモア
(十二使徒評議員会補助)

何 年間もの間、ジェームス A・カリモアは、アイオワ州のサイオックス市の支部長、オクラホマ市の支部長、及び西オク

ラホマ地方部の地方部長であった。1960年10月23日、オクラホマステーク部のステーク部長になるなど、教会の会員を導き、相談相手となって来た。カリモア家は、常に宣教師が福音の偉大な教義を説くことで彼らの精神的疲れをいやしよい食物を得ることができる、いわば避難場所であった。1960年12月にカリモア長老は、中央英国伝道部を管理するよう召され、オクラホマの人々は彼を単に繁盛した家具店主としか考えていなかったし、また彼がどんなに長い間、教会の責任を受けるために個人的なことがらを犠牲にして来たかを理解してはいなかった。しかしながら彼はよろこんで犠牲を払った。教会のオクラホマでの状態は本当にようになっていった。彼は1966年4月6日に十二使徒評議員会補助として支持され、中央西部において教会のイメージは、よいものとなった。彼は1906年1月17日、ユタ州でアルバート L・カリモアとルエラ・ゲッチカリモアの間の息子として生まれ、1924年12月にカリフォルニアで伝道し、BYUで勉強し、そこでは学生委員会の委員長をつとめた。彼は1931年6月3日にソルトレーク神殿で、グレース・ガードナーと結婚した。彼らはニューヨークへ行き、ニューヨーク大

学で大学院のための奨学金を受け、ニューヨークのギンブル兄弟社と1932年に家具仲介人としての事業を始め、シカゴにあるマンデル社とも業務提携を結んだ。1937年、彼はオクラホマ市のブラウンズにある家具仲介人またその支配人となった。オクラホマ市でのカリモア家は、彼らの息子や二人の娘を養育するためにユタ州へ行くべきかどうかを考えた。第二次世界大戦はこのような引越しを妨げた。1946年中央部州伝道部を旅行していた時に、ジョセフ F・メルル十二使徒は、その問題を聞いて言った。

「あそこは、主があなたに望んでおられるところですよ。子供を教育するためにBYUに送りなさい。彼はきっと教会の中での結婚をします。ものごとはすべてあなたにとってうまく行きます」と。

日 ならずして、カリモア長老は、繁栄することになる自身の家具店をオクラホマで開くために一軒の家を借りた。カリモア長老は支部長、地方部長、ステーク部長、伝道部長、教会福祉委員会の会長、あるいは会員たちの友人であり、主の御業を日々に、より多く為していく人である。

1967年10月18日夕刻7時5分アイビンズ長老の訃報に接し、つつしんで哀悼の意を表します。

アントニ R・アイビンズ (七十人最高評議員会会長)

ア ントニ R・アイビンズについてどういふことを言うことができますか、とある友人がたずねた。

「アイビンズ会長は神様のやさしい一人の男とでもいえますかね。よくバランスのとれた温和な性格をもった……。彼は優雅で親切で謙遜で、すべての人々と協力して行ける人ですね、教会の中でも日常の生活にあってもつつまじやかな物静かさがあり、自己を鍛練した強さが、その苦悩の時代を物語っていますね」

ア ントニ、リッヂウエイ、アイビンズは1885年5月11日に、ユタ州セントジョージで、アントニ W・アイビンズとエリザベス・アッシュバイ・スノウ・アイビンズの息子として生まれた。若い時、しばしば父のともをして旅行し、馬の背の荷物には必らず書物と同時に釣竿があった。彼が15才の時、メキシコに移り、彼の父はジュアレツ

ステーク部の部長とメキシコ移住民及び農業会社の社長であった。彼はジコアレツ・アカデミで勉強を続け、後にメキシコ市のジュリスプルーデンス学校で学んだ。彼の父が1907年10月の一般大会で十二使徒に支持されたとき、彼はソルトレーク市に移り、ユタ大学に入学し、後にミシガン大学で法律を学ぶためにアン・アーバーに在籍した。

19 12年6月26日に、バイレートエレン・D・ムニと結婚した。彼女は1964年10月4日に没するまで、彼女の夫とともによく旅行し、夫の責任を助けた。アイビンズ長老は、1921年から、31年にかけて、ハワイのライエにある教会砂糖園の支配人となったが、それまでユタで、牧場及び農場を経営していた。1931年10月の一般大会で、彼は七十人最高評議員会の一員として支持された。1931年8月から1934年3月まで、メキシコ伝道部の部長として働いた。スペイン語に教義と聖約を翻訳したレイ・L・プラットの仕事を受けて、エドワルド、バルデラスに助けられ、1948年に教義と聖約と高価なる真珠のスペイン語版が完成した。

19 34年に伝道から帰ると、アイビンズ会長は幹部としてフルタイムで、すべて

の勢力を教会に捧げ、1963年12月13日に、レーヴィ・エドガーヤングがなくなって以来七十人最高評議員会会長として働いている。

人 生のあや、ユーモア巧みな話をおりまぜて説教壇から福音の偉大な真実を話すとき、その暖かさを感じない教会のステーク部はない。教会が強くなるよう助け、幹部として召されて以来、教会が強く成長するように、また会員たちや活動が大きくなるようにと見守っているのである。

(34頁よりつづく)

らの大理石、しめめのうやめずらしい木材などの説明のパンフレットをもらい、他の場所で建物の内装にその美しさを役立てることができる。

教 会本部の住所、ユタ州ソルトレーク市イーストサウステンプル47番地は、教会の会員に特別な意味を持って来ている。未来の宣教師には、ある封筒がよるこびで迎えられ、心ゆくまで読み、繰り返し、記憶するまで読み、生涯大切な物として保存される。教会の会員は三代または四代を通じて、第二の半世紀の働きを始めようとしているこの美しい花こう岩の建物の中から、指示や導きを受けているのである。



S・ディルウォース・ヤング
(七十人最高評議員会々員)

19 45年4月、ディルウォース・ヤングが七十人定員会に召されたとき、リチャードL・エバンスはインブループメントエラで次のように述べた。

「神は教会の必要と時代の要求に従い、人々を資格づけます」

この新しい幹部は最初の頃次のように述べている。「男には働らきが必要なので開拓者たちは盆地に入植したのだ」ここにその必要性があり、そしてここに必要に応じる人間がいたのだ。ヤング長老は、ユタ州オグデンのスカウト隊長として働いていたが彼がこの新しい召しを受けたとき、その友人は次のように述べた。「やあー、これは君にとってすばらしいことだ。だが、君をとられたかわいそうなボーイスカウトはどうするかね」と。そのオグデングループで少年たちとあるいは青年たち、そのリーダーたちと一緒に働いたヤング長老は、その働らきを世界へと伸ばしている。

ヤング長老は1897年9月7日に、ソルトレークで、サイモアB・ヤング(二代目)と、カーリー・ルイン・ヤング・クラウソンの息子として生まれた。彼はグレイニット高校で学び、1917年には生徒会の会長に選ばれている。高校を終えて、彼はアナポリスの合衆国海軍士官学校のテストに合格したが、健康のために入学できなかった。彼は1918年までフランスで第145回の芸術祭に加わり、活躍ぶりを見せた。1620年に、中央州部伝道に召され、帰ってから1623年グラディーズ・パ

ラットと結婚し、二人の子供に恵まれた。1944年のベルギー異動で殺されたディルウォース・ランドルフとレオノブレインP・パーキンソン夫人となっているレオノアが子供である。妻グラディの死後、彼は1965年1月4日にハルダバーカーと結婚した。1947年5月に、彼はニューイングランド伝道部を管理するよう召された。また彼の仕事に教会の若い人々や帰還宣教師を指導する責任が与えられたが、その人々は一様に、彼が指導したことは「主によりたのめ」であったと報告している。

ヤング長老は、散文と詩才に恵まれていて、その散文は明確であり美しい文体で書かれている。詩も感受性豊かで人を惹きつけずにはおかない。彼は、若い執事だったとき、彼の監督であるジョンD・ガイルズについて、執事の仕事と責任を实によく知らせてくれた人だったと語った。

七十人最高評議員会のメンバーとして、何十年間も教会の他の七十人たちや幹部たちと働いたが、大会に出席している聖徒らに話しかけるヤング長老は、七十人会の仕事を本当に大切なものとし王国にとって非常に重要なものまた個人にとって極めて権威あるものとしたのである。

ミルトン・R・ハンターは、福音紹介において深い影響を与えてきた。例えば、高価なる真珠、モルモン経の考古学、教会歴史、その他多くを著わし末日聖徒の心の中に深い印象を与え、福音の真実性を立証している。知識を渴望したことによって恵みを受けた。彼は若い時から多くの人々を感銘させている。彼は1935年パークレーのカリフォルニア大学で歴史学の博士号を得た。有名な文献学者であるが、歴史学者でもあるハーバート・ボルトン博士と語り合っていたとき、出しぬけにボルトン博士は次のように述べた。

「ハンターさん、私はあなたをユタの小さなモルモン教徒のセミナーなどで埋もれさせたくないね。あなたにはアメリカの偉大な歴史学者としての素質が充分ある。私はこの何年かをあなたの研究をそのままにして無駄にするために費してきたのではない。もし心を変えたら我々はあなたがうけた期待や研究が実るような有名大学にしかるべき、地位を保証するのだが……」しかし彼の心は変わらずに教会と家族に向いていた。彼はユタ州のホールデンで、1902年10月25日にジョンエドワードハンターとマーガレット・ティーブルス・ハンターの息子として生まれた。彼は福音を

先ず、信仰深い両親から学び、学校卒業期までに彼ができるすべての知識を得たいと望んだ。しかしながら家の経済事情が思わしくなかったため、いくつかの大学のクラスで講義を聞いたあと学校教師となり、そうしたかたわら教育を続けるしかなかった。彼は次第に宗教教育へ彼の心を向け始めた。最終的にB.Y.U.から学士と修士の号を得たとき、彼はネバタの学校の校長であつたし、ユタの中学校の二つで校長をつとめていた。また神学セミナーの校長でもあつた。1931年リーハイ市に住むフェーンガードナーと結婚し6人の子供に恵まれた。彼は博士号を受けるために勉強するかたわら神学セミナーで教えた。やがて彼はローガン・インスティチュートの責任を受け、研究と著作の生活に入った。

ちょうど二、三年経って、彼は西アメリカの多くの歴史雑誌に研究論文を書いたが、ユタの歴史についての著書は今もなおユタ州のいろいろな学校の教科書として採用されており、また彼は教会歴史を題材として価値ある本をいく冊か書いている。1945年4月6日に、ハンター長老は、七十人最高評議員



ミルトン・R・ハンター
(七十人最高評議員会々員)

会に召され、彼の真理に対する探求は新しい段階を迎えることになった。今や2冊の本と数百の論文が、彼の教育を実りあるものとなして、その働らきを永遠に記念しているのである。



ブルース・R・マッコンキイ
(七十人最高評議員会々員)

こ の世で主が王国を築き上げんとして、私に時間と才能を恵まれ、福音を宣べ伝える特権を与えられること以上のものはない。

七 十人最高評議員会のブルース・R・マッコンキイ長老のこの言葉は、彼の人

生を導いてきたものを指し示している。

マッコンキイ長老は、ミシガン州アンアバーで1915年7月29日にオスカー・W・マッコンキイとビビアン・レッド・マッコンキイとの間に生まれた。彼の父はミシガン大学で法律を勉強していた。11歳のとき、少年であったブルースは、彼のまわりに兄弟や姉妹を集めてモルモン経を読んであげたりした。

ソ ルトレークに戻ってから、彼はLDS
ン 高等学校に通い。1934年から1936年まで、東部州伝道の召しを受けた。彼は、1937年にユタ大学を卒業し、法律学士号を受けた。1939年のことである。1967年6月にはその同じ分野で博士号を受けた。1937年10月13日に彼はアメリカ・スミスと結婚した。彼女の父はジョセフ・フィールディング・スミスである。彼らには九人の子供がいる。彼は、1946年10月10日に七十人最高評議員会に召された。

マ ッコンキイ長老はユタ州弁護士会の会員であり、現職の弁護士であり、市の補助弁護士、検察官であり、米国防軍の第8厚生部隊謀報部付き将校等を勤めてきた。彼は米国防州大戦従軍軍人団に加わり現在は野戦砲兵予備隊の陸軍大佐の職にある。

また長年の間、教会に対する軍人の最高責任者でもある。また、南オーストラリア伝道部の伝道部長をもつとめた。彼の聖典に対する知識と絶えざる研究は、教会のクラスにおいて人々を魅了し、鋭いユーモアのセンスは彼の教えをしたしめるものになっている。

大 会の説教にマッコンキイ長老は次のように述べたことがある。

「この偉大な末日の王国の会員である我々に平安を与えて下さる深い思いに対して報いるためには主の律法の知識に通じなくてはならない。このように述べるところに彼の真摯な働らきの結果が吐露されるのである。

19 51年10月の一般大会で、彼は次のような経験を報告している。

「6ヶ月前、集会の厳肅な雰囲気の中で大管長会が支持されたとき、私はここに座っておりましたが、主の御声がひそかに私の心にきこえ、次のようにいいました。『彼らこそ私が私の教会の大管長会として選んだ者たちである』と。この証言は、御業の神聖さを証しするものであります」と。この時の「兄弟たちに従え」というテーマ通りにマッコンキイ長老は彼の人生を兄弟たちに捧げているのである。

ハ ンクス長老はあの象牙の塔の感じ、とりずました学者という感じは持ってないですよ、と若い帰還宣教師がハンクス長老についてたずねられたときに答えた。

「ハンクス長老は、世の一般の人々ともよく接触しますし、彼らの日常の楽しみや機会や経験をよく理解しているように見えます」

建 物管理人や、秘書や子供の時からの友人や幹部たちのベトナムから帰ったばかりの兵士などに話をしてみれば、あなたは彼ら一人一人について関心をよせているハンクス長老がいかに彼らから愛されているかを知ることだろう。多くの静かな戦場で、彼は祖国に平和をもたらすために戦ってきた。勇気を要する幾多の場面で、彼は人や問題に関して正しい裁決を行ってきた。

マ リオン・D・ハンクスは1921年10月13日ソルトレーク市で、スタンリー・A・ハンクスとマラデフレーム・ハンクスとの間に生まれた。彼は1949年ハワイのホノルルのマクスイン・クリスチャンセンと結婚し5人の子供に恵まれている。彼らの家庭には常に人々が訪れて彼らは慰められ、心をいやされる。そのような人々のために、家庭が開放されているのである。●人種や、宗教的信条や身

分やその負っている問題に関係なく、見知らぬ人も暖か家庭に歓迎される。天父にお仕えしたいという願いはハンクス長老の人生を動かす力である。執事になったときまだ若かった彼は標準聖典を読むために夜遅くまでおきていたことが幾度となくあった。能力に恵まれていたにもかかわらず彼は宣教師として主に仕えるために大学の特別奨学金を断念した。だが彼はユタ大学の法律学部を卒業し、法学博士号をそこから得ている。しかし彼は法律で生きるよりも研究所やセミナーのクラスで教えることを選んだ。モルモン経と教義と聖約をユタ大学のインスティテュートで教えていたとき、多くの人々の心を魅了し、そのホール一杯に人が溢れたのであった。彼は1953年10月に七十人最高評議員会で働くよう召された。彼が見出したよこびは、光と真理の探求によって人々を助け励ますことであるが、彼はインブルームメント・エラの青年担当編集者として、教会の若い人々に幅広い影響を及ぼしているのである。

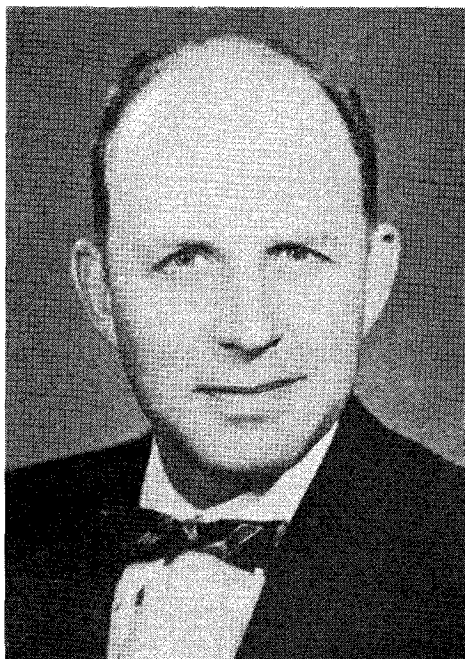
マリオン・D・ハンクス長老について尋ねたら、すぐに答えとして、彼の人格の徳性と、その深い献身についての言葉がかえってくるだろう。「彼は聞いてくれます」「大会で



マリオン・D・ハンクス
(七十人最高評議員会々員)

の彼の話はいつも要領を得ています」「私は、彼が最も偉大な人々の中にあってどんなに安らかな心を抱いているかを知っています」

「灯をつけながら通っていった道によって点灯夫がどこにいるかがわかるのです」ということばをあなたは御存知ですか。そのようにダフ・ハンクスがいるところには、必らずよい人々がいるんです。彼は本当に人々のことを考えている人なのですから。



A・セオドア・タトル
(七十人最高評議員会々員)

彼の母が6歳の彼に日曜学校の話覚え
るようにと言ったとき、彼女は、その
子供が後に世界中に語る者となることを思っ
てもみなかったに違いない。しかし、これは
彼女がしばしば語る、「約束の子」としての
一人息子に対する彼女の信仰でもあった。

タトル長老は1919年3月2日にユタ州マ
ンタイでアルバート・トルビンとクラ
リン・モンテツビールの息子として生まれ
た。母は奉仕の人生がいかに価値あるかを教
えた人である。若いときから雄弁な人との評
判の高かった彼は、高校や大学においては演
劇や歌劇なども卒先して行い、生徒会の指導
者でもあった。神学部の先生とは親しい関係
にあったので、北州部伝道を終えるとBYU
に入り、宗教教育を徹底的に勉強してみること
にきめた。彼は学生生活の後半において宗教
教育の優秀な学生として賞を受けて著名に
なり、1943年6月21日に、マーン・ウィティ
カーと結婚し、7人の子供の両親となった。
結婚後間もなく、彼は海軍に入り二年半勤め
た。彼は硫黄島のスリパチ山にかかげること
になっていたアメリカの国旗を手に入れるた
め船に戻った人であった。国旗の掲揚は伝説
化され、影像となり、写真になり映画にさえ

なっている。

帰

国後、彼はユタ及びアイダホでの神学
セミナーで教え、一方夏にはスタンフ
ォード大学で教育修士を得るために学んだ。
ネバダ州のレノでインスティテュートのディ
レクターとして奉仕した後、1953年彼は教会
学校のセミナリーやインスティテュートのス
ーパーヴァイザーに任命された。仲間は彼のこ
とを「監督の仕事にみなみなならぬ才能を持
ち、組織を完全に理解し全体的な像を把握す
るまれな才能」に恵まれた人と評している。
長い間、彼と親しくして来た人は「学問的造
詣の深さと深い影響力は、彼のもつ隣人に対
する関心と同情という特性と共にひじょうに
高く評価されている」と。

19

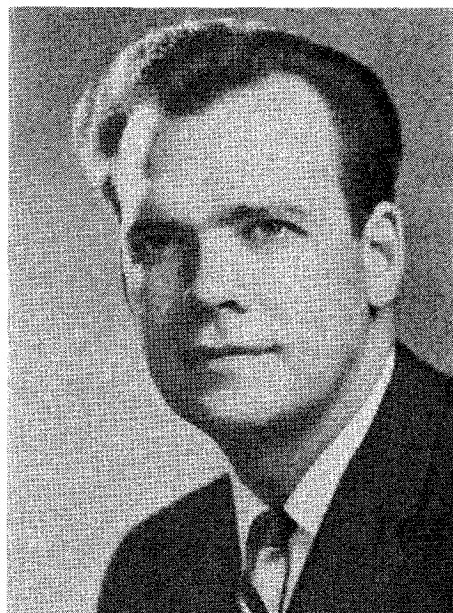
58年4月10日、タトル長老は、七十人
最高評議員会に召された。3年後に彼は
南アメリカの伝道部長に召され、そこで彼は
4年間に二万人から四万人への会員増加を示
して教会活動を助けた。現在は北アメリカの
スペイン語伝道部の監督の働きもしている。
福音伝道に対する生涯をかけての情熱は主か
ら認められている。タトル長老は主の王国の
偉大な教育者である。

第

二次世界大戦中にグアム島の壕の中で
おそれおのき傷ついた若い兵士は、
極めて厳粛な問題の答を得たいと強く願っ
ていた。死が多くの中間の生命を無駄にするの
をみて、彼は心にわきあがる考えをおさえる
ことが出来なかった。神はいるのだろうか？
末日聖徒イエス・キリスト教会は真の教会な
のだろうか。深い問いと恐怖の中でポール・
H・ダン長老は熱心に謙遜に祈った。この経
験について彼は次のように述べている。

「すぐに私の心に優しいみたまが入り、慰
められて、神が存在し、イエス・キリストの
教会は再びこの地に建てられたという確信が
あった」と。ダン長老は、1924年4月24日ユ
タ州のプロヴォで、ジョジュア・ハワード・ダ
ンとジェネバ・ロバーツ・ダンの間に生まれ
た。彼は、若い時スポーツを愛する心もち
ベースボールをよくしたが、ロスアンゼルス
の高校チームでプレイしたあと、投手として
セントルイスカーディナルスと契約しパイオ
ニアリーグと、パンフィックリーグのファ
ームにいた。戦争は彼の野球歴を妨げた。戦争
後、彼はカーディナルスと契約して投げはじ
めたが鎖骨を折ってしまった。十分になお
きるチャンスはなく、しかも日曜日に野球を

することに対する考えもあって彼は教育と
いう他の分野へ方向転換した。ダン長老
は、チャップマン大学に出席し1953年に宗
教学士を受けて卒業した。次の年、彼は南
カリフォルニア大学から修士の学位を受け
た。一方彼は改宗してバプテスマを受け、
チャップマン大学の学長の娘であるジーン
・チェヴァートンと結婚し三人の娘の父親
となっている。そしてロスアンゼルス
のセミナリー教師として教会学校の経歴を
ふみ出した。彼は、セミナリーの南カリ
フォルニア副責任者として奉仕し、次に南カリ
フォルニア大学にあるインスティテュートの
スーパーヴァイザーとなった。1959年彼は
また南カリフォルニア大学から教育博士号
を受けた。彼は、1964年4月6日に七十人
最高評議員会に召されたとき南カリフォル
ニアのインスティテュートすべての総責任
者として奉仕していた。教会での教育計画
におけるダン長老の経験は、最近の青年及び
成人の要求や関心に対する彼の最近の深く
鋭い洞察力を養った。彼は青年と、彼ら
が抱えている問題についての知識や自分の
経験を活用しながら、補助組織で用いら
る多くのレッスンを書いた。



ポール・H・ダン
(七十人最高評議員会々員)

こ れらの見識と陽気な人柄は、教会の現
在の責任に価値ある宝となっており、
その責任の中にはL. D. S. 学生協会国際
会長としての奉仕も含まれている。



ジョン・H・ヴァンデンバーグ
(管理監督会監督)

19 世紀の後半オランダのロッテルダムからはるかソルトレーク峡谷へ向けて船に乗り込む移住民の団があった。彼らは末日聖徒イエス・キリスト教会に改宗した人々

であった。船の上には、ハンサムな青年ダーク・ヴァンデンバーグがいたが、彼は、やがてマリア・アルケマに心ひかれた。彼らのロマンスは花咲き、ユタに到着した後、ソルトレークのエンダウメントハウスで結婚した。彼らには6人の子供が生まれたが、そのうちの一人が1904年12月18日に生まれた第9代目の管理監督となったジョン・ヘンリー・ヴァンデンバーグである。ヴァンデンバーグ家は、オグデンに入植した。後にヴァンデンバーグ監督は自分に影響を与え、生涯にわたる生き方を示してくれたものは、自分の両親によって示された愛と奉仕の模範であったと述べている。彼は若い頃から、経済を彼の生涯の仕事に決めていた。彼はウェバーアカデミイで学び通信教育や夜学で学びながら、事業や経営における専門家となった。1925年彼はオランダ伝道に召され、そこで彼は伝道本部書記として働いた。彼が愛らしいオランダの婦人、アリエーナ・ストークとあったのはロッテルダムの伝道本部においてであった。彼女は間もなくユタ州へ移住し、1930年6月18日にソルトレーク神殿で二人は結婚した。現在二人の娘がいる。

オグデンに帰って、ヴァンデンバーグ監督は、オグデンユニオン倉庫会社の仕事に関係した。1940年彼はデンバーに転勤したが、そこでの主たる関心は、織物と牧場にあった。彼は1950年に視聴覚関係の仕事に入った。彼は1955年、教会建築委員会の經理担当の副会長となった。

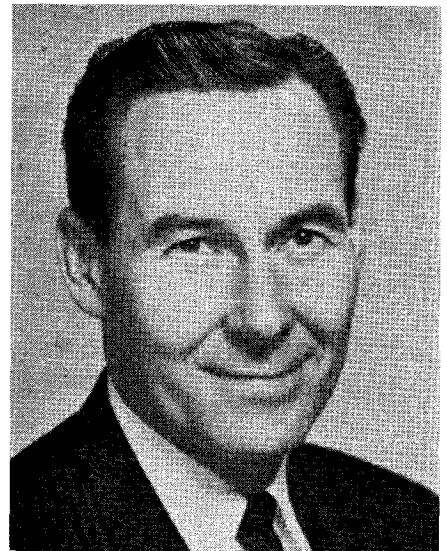
彼の人生を通して、ヴァンデンバーグ監督は、教会に献身的であり召されるすべての職ワード部コーラスの指揮者、長老定員会のカウンセラー、ステーク部伝道部長などによるこんで仕えた。彼は先ずデンバーステーク部長会の第一副ステーク部長となり次にエンサインステーク部長会の第二副ステーク部長となった。1961年9月30日彼は管理監督に召された。

彼は管理監督として、アロン神権を管理する鍵をもっている人である。若い少年たちにどんなことを忠告したかを尋ねたとき、彼は次のように答えた。「両親に心を向けて生活することと、彼らの助言を尊ぶことです」ジョン・ヴァンデンバーグ監督は、移住民である両親が彼の人生において最大の力となっていることを長い年月を通して知っているからこそこのように述べるのである。

□ パート・L・シンプソン監督は、いつも微笑を浮かべており、あたかも「私はあなたをもっとよくする方法を知っていますのでそれを分かちあう機会を求めています」と語りかけているようです。シンプソン監督は1915年8月8日に、ソルトレーク市でヒーバー・C・シンプソンとリリー・C・リーサム・シンプソンの息子として生まれた。家族は南カリフォルニアに移ったが、このとき彼は5歳であった。サンタモニカ市立大学を卒業後、ニュージーランド伝道部で働くよう召され、1937年4月14日に本国を離れるとき、彼は「あなたはこれから行って働く国の人々についての知識を恵まれる」という祝福をもらった。伝道をして二ヶ月目に、彼は家に帰っていて、家族の者とすわり、ワード部の人々もいてお互いにマオリ語で話していたがそれを自分が理解できないという夢を見た。目をさまして、彼は二つのことを考えた。自分がもっとマオリ語を学ばなければならないということと、この言葉の知識が、伝道を終えた後も彼にとって価値があるということである。彼はそれを実行しまもなく祝福の約束は成就されたのである。

第二次世界大戦が始まったときシンプソン

監督は、空軍に転入された。彼は前線に送られるということを知って、それが南太平洋であればと思った。そこで再びマオリ人と働けるかも知れないからである、にもかかわらず彼の所属する軍隊はエジプトに派遣された。48時間の中に隣接の基地に、ニュージーランドからの完全なマオリ大隊がいることを知った。南太平洋諸島の人々はホームシックにかかっており、彼らは、シンプソン監督と彼らの言葉で話すことのできる時間を非常によろこんだ。1942年6月24日、彼はジェレイア・キャスリン・チャンドラーとアリゾナ神殿で結婚した。彼女はオグデン生まれであるが南カリフォルニアで育った人である。彼らには二人の息子と一人の娘がいる。シンプソン監督はイングルウッド(カリフォルニア)ステーク部の高等評議員として奉仕し、次にワード部の副監督となりステーク部伝道部長となり、ステーク部YMMIAの会長となって彼は20年間ずっと、パシフィック電話会社につとめた。多くの帰還宣教師は、家族と一緒にまたその伝道地に戻りたいという希望をもっている。ロバート・シンプソンにとってもそうであったが、彼は1958年6月28日にニュージーランド伝道部の伝道部長として再びか



ロバート・L・シンプソン
(管理監督会第一副監督)

での伝道部を訪れた。彼のその伝道中に、一つの神殿と一つの大学が献げられ二つのステーク部が組織された。彼は1961年10月の一般大会で管理監督会の第一副監督として召された。この責任で、彼は教会の実際の問題を取り扱っており、教会のすべての人々、特に若い人々によせる彼の関心は大きなものである。



ビクター・L・ブラウン
(管理監督会第二副監督)

彼は9歳の時、両親とのシーリングを行
うために弟と一緒にアルバータ神殿を
訪れた。「私は今でもおぼえています。それ
はまるで昨日のことのようです。その儀式の
意味はよくわかっておりました。今までのど

んな経験よりも私の心に大きな平安をもたら
しましたから」と彼は追想する。また「その
指定された日に、私は高い熱におかされてし
まいました。私の父母はその指定日に行かな
いことも考えましたが、私は一日も遅らせな
いようにと両親に話しました。私はぜひとも
儀式を受けて今も永世にも私の両親と共にい
たいと思いました。若いときのこの経験がビ
クター・L・ブラウン監督の教会に対する奉
仕と愛の生涯の舞台を作ったのである。彼は
1914年6月31日、カナダ、アルバータのカー
ドストーンでジェラルドSブラウンと、ヒュー
・B・ブラウンの姪であるマギー・リィ・ブ
ラウンの息子として生まれた。16歳のとき家
族はソルトレーク市へ移り、彼は南高校、ユ
タ大学、LDS実業大学に通った。またパー
クレーのカリフォルニア大学でも学んだ。19
36年11月に彼はロイズ・クジアーと結婚し5
人の子供に恵まれた。彼の教会での成長は、
着実で、神権定員会や補助組織の指導者、デ
ンバーの第四ワード部監督、またデンバース
テーキ部長会の副部長として奉仕したが、そ

の仲間の副部長には後に管理監督となったジ
ョン・H・ヴァンデンバーグもいた。40年に
彼はユナイテッド航空で働き始め、ワシ
ントンやデンバーやシカゴで21年間重要な職に
あって働いていた。1961年9月にシカゴで予約
係の監督をしていたとき彼は次の朝早くソル
トレーク市のマッケイ大管長とあうことがで
きるかどうかという問い合わせの電話を受け
た。マッケイ大管長の個室で、管理監督会の
副監督として奉仕するよう依頼されたときの
自分に深くそそがれていた予言者のまなざし
を彼は思い出す。

「その瞬間、唯一人の偉大な御方が私に奉
仕するよう依頼されている。それは救い主御
自身であるという考えが、私の心をつらぬい
た」ブラウン監督は1961年9月30日に新しい
召しに支持され1961年10月6日から働き始め
た。彼の新しい責任や割当ては翻訳や出版や
教会の、デистриビューション組織(配送
組織)を確立することなどであって、それは
世界の多くの伝道地域を網羅した12ヶ国語に
も及ぶ責任なのである。

教会本部建築50周年記念

教会本部の建物はイーストサウステンプ
ル47番地にあり、世界で最も美しいオ
フィスビルのひとつであると言われて来た。
しかしそれ以上のものであることは言うま
でもない。それは教会の幹部が事務所をも
っており、全教会員に及ぶ重要な決定をす
るところだからである。多くのステーク部
長や監督が相談しに来るところであり、教
会の会員が来るところであり、導きを受け
るところである。宣教師が四階の宣教師部
へ、熱意に満たされて来るところであり、
デビッド・O・マッケイ大管長が、国家や
世界の指導者と会見するところである。基
礎石は1914年に置かれ、建物は1917年、
六代目大管長ジョセフ・F・スミスの時代
に開かれた。スミス大管長は1918年11月
に没するまでそこに事務所を持っていた。
建物は、かつてはブリガムヤング大管長
の所有物であった土地に建てられたがビー
ハイブハウスとライオンハウスの西部開
拓者の二軒の家に隣接している。外部の壁
はソルトレーク神殿の花こう岩と同様に、
それより南東25マイルのところから運ば
れた花こう岩でつくられている。建物の優
雅で心楽しいスタイルは、ギリシャのイ
オニア式であって、24のイオニア風の円
柱がビルの周囲をとりまいて柱廊を形作
っており、各コーナーには重い

塊石が用いられている。美しい数々の彫刻
をほどこしたどっしりと重いなげしが各
円柱の上にのっている。建物は地上五階、
地下一階で高さ約27メートル、幅が約30
メートル、奥行50メートルの長方形をな
している。4517個の花こう岩でこの建物
は作られており、基礎石に用いられている
最大の石は8トンもあり、合計6,205ト
ンの石が使われている。建物の南にある正
面玄関にさしかかるとブロンズの格子戸
があって、建物が開かれている時壁にす
べり込んでいる。これらの後方に、一對の
固形ブロンズとガラスのドアがあり、同
様にブロンズ製の枠でできている。それを
開くと、白い大理石の床とユタで産出す
黄金色の大理石でできた壁のある入口の
広いホールへと通じている。

入口の北側には大レセプションホール
があり、その床も大理石で敷きつめられ
壁はユタ産の金色の大理石でたてじまの
16枚の石でできている。この階の最北端
には、大管長会の部屋があり、クルミ材
と大理石で美しく仕上げられている。東
側の壁には、白い石灰石でつくられた暖
炉がある。

階の西側には、幹部たちが集まって教
会の諸問題を討議する大広間がある。こ
の部屋は、ほぼ大管長会の部屋と同じ大

きで、大理石の炉のあるユタの大石灰石
でつくられた暖炉が人目をひく。建物が
新しいときは終日火がたかれていたこと
だろうとのばれる。

デビッド・O・マッケイ大管長の私室は
一階の北角にある。ここでは、ジョセ
フ・F・スミス、ヒーパー・J・グラント、
ジョージ・アルバート・スミスの歴代大
管長が教会とこの地上の王国を導くため
に予言者がしなければならない種々の決
定をするために働いたところである。

階のエントリホールから、美しく曲
線を描いた大理石の階段が十二使徒評
議員会の人々のオフィスへと通じており、
教会大祝福師、十二使徒評議員会補助、
七十人最高評議員会、管理監督会、教
会歴史家その他のオフィスもここにある。

全教会大会のとき、この建物は、文
字通り、そこに入る機会を得ようとする
教会の会員であふれる。その他の機会に
は、セミナリイの学生グループや、他
のグループが旅行にきて来て立ちよ
ったり、ここに保存されている教会の
歴史記録を見に来たりしている。いつ
来ても歓迎される旅行者は、合衆国、
ホンジュラス、コーカサス(南部ロ
シア)の各地か

伝道部長会メッセージ



アドニー Y. 小松伝道部長

愛 する兄弟姉妹の皆さん

私たちはまことに祝福されまして、このたび新しくユニファイド・マガジン（名称は従来通りですが英語を使わない国々のために記事を統一して教会本部から出す雑誌）を手にし、世界の他の伝道部に仲間入りをすることになりました。私は皆さん一人一人がこの本のすみからすみまでお読みになって、教会のいろいろな指導者の勧告や教えや助言により、御自身を啓発されますよう希望致します。

今 や私たちは教会の出来事に遅れをとることなく、最新の情報をいち早く知ることができるのであります。教会には、インプルーヴメント・エラ、インストラクター、扶助協会の雑誌、チルドレンズフレンドという各種雑誌がありますが日本語に訳されておりません。そこで毎月これらの雑誌から選ばれた記事が私たちのために翻訳されることになったのです。この本の表紙と記事は毎月教会の機関紙として、世界中の伝道部で編集され、印刷され、それぞれの国語に翻訳されるのであります。私は皆さんが自分自身の予約をされて、毎月楽しみにお待ちになりますように望んでおります。

先 月私たちは特に恵まれて、使徒スペンサー W. キンボール御夫妻を3日間この伝道部にお迎えしました。御夫妻はオーストラリアのお仕事の帰途日本にお寄りになられたのであります。私たちは御夫妻にその短い滞在中にできるだけ多くの聖徒たちに出会っていただこうとして、東京、大阪、北海道で特別集会を開いたのであります。

御 夫妻はどこへ行かれてもすばらしい歓迎をうけ、皆さんの福音に対する強い証を感じられたことを心から感謝しておられました。御夫妻はまた日本の聖徒たちとその強い熱情とすばらしい歌声に深く感動なさいました。

私たちは皆さんが御夫妻の訪問を思い出多いものにして下さいましたことを心から感謝致します。主が常に皆さんを祝福されますように。

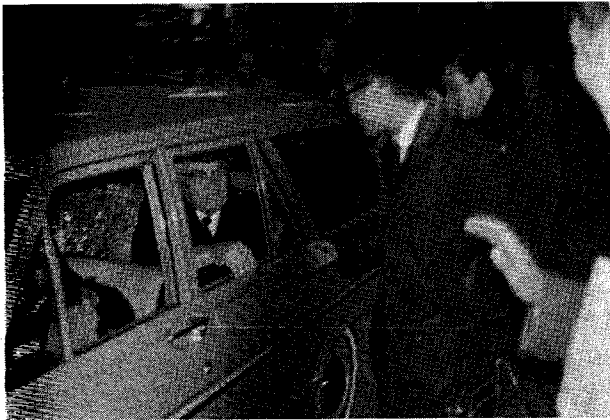
ウェルカム スポンサー W. キムボール御夫妻



これが握手だ。日本の兄弟よ
世界の同胞の手を握って来た暖い手は、
今、日本の兄弟たちに差し伸べられた



使徒御夫妻を迎え
伝道部長会始め
聖徒たちの顔はほころびる



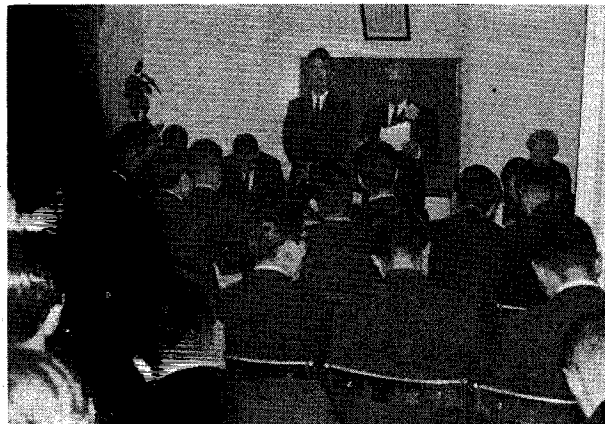
日本の第一夜を伝道本部へ
つかの間も名残を惜しんで
後を追う聖徒たち



何と美しい日本の花よ
大和なでしこが捧げる花に見入る
キムボール使徒と黒髪の姉妹にほほえむ
キムボール姉妹



私にも主を偲ばせるその柔和な手を
順番を待ちきれぬ
聖徒たちの顔々々……

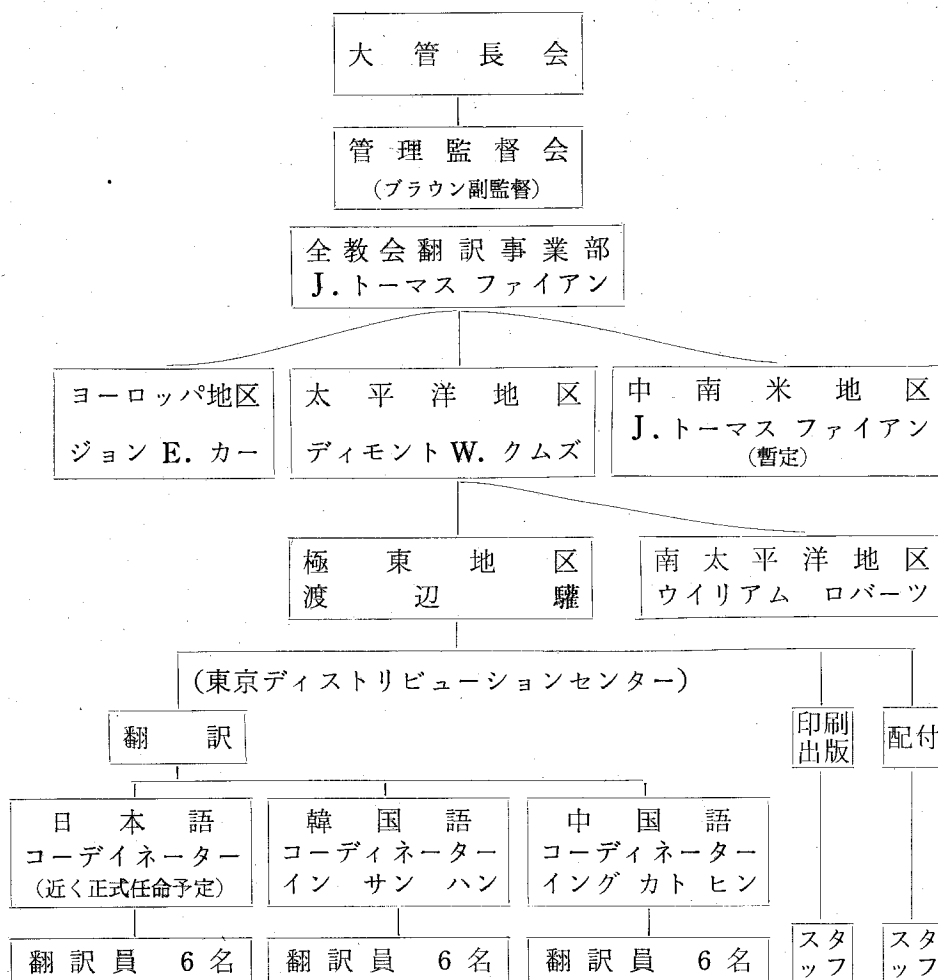


日本の神権指導者たちよ
教会は今一大飛躍の時機ですぞ
神権を身に帯びて強く立上り
なさい。いつ、誰が何をど
のように、何のために、
指導者はいつも具体的
実際的な指導を与え
るように

翻訳事業部設立の動き！

かねて発表されていた極東における翻訳事業も1月に開かれたソルトレークでのオリエンテーションに引続き着々とその準備が進められており、来る3月19日のブラウン副監督の来日を期に正式に発足する予定である。翻訳事業部の目的は1833年3月8日予言者ジョセフ・スミスにより主が啓示された「その日イエス・キリストを啓示するために彼らの上に注がる『慰め主』の施したもうによりてこの能力を授けられたる者たちの口より、あらゆる人々は己が国語と己が言葉にて完全なる福音を聞かん。」(教義と聖約 90:11)という啓示を実現するためのものであり、このたび大管長会が管理監督会に特にこの旨を指示されたものである。すなわち極東の人たちに完全な福音をそれぞれの国語で学ぶことができるように手助けをすることである。これは教会の完全なプログラムの翻訳、印刷、出版、配付を担当する機関である。

翻 訳 事 業 部 組 織 図



管理監督会ブラウン副監督と打合せをする役員たち
前列左より ブラウン副監督 ファイアン兄弟 (事業部長兼中南米地区担当)
後列左より 渡辺兄弟 (極東地区担当) クムズ兄弟 (太平洋地区担当)
カー兄弟 (ヨーロッパ地区担当)



聖なる翻訳の仕事に

たずさわるにあたり

翻訳事業部翻訳員

渡部 正雄

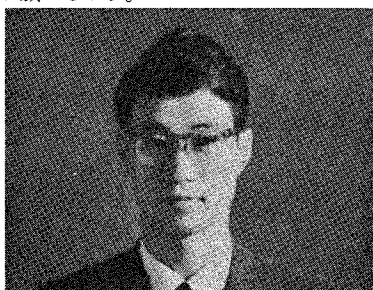
現代の啓示、教義と聖約第九十章十一節に基いて始められた、この翻訳事業部が今やこの極東伝道部にも始められましたことを心から感謝致しております。そしてこの重大な召しを受けた者の一人としてこの大きなお恵みに限りない喜びと感激を覚え感謝の念に堪えない次第であります。そして一意専心、私の生涯をかけてこの尊い召しに献身努力して行きたいと願っております。私の知識の足らなさからこの任事の如何に困難であるか、またその責任の如何に重大であるかをよく知っています。私としては、この大切な神のお仕事にたずさわるに当って、まずへりくだって神に祈り、みたまの導きと助けを祈らずにはおられません。常に心身を清め神に祈り、みたまの助けによって、この尊いお仕事をできるだけ正確に且、迅速に為すよう、最善の努力を尽したいと願っております。この仕事にたずさわる時いつも言い知れぬ喜びと幸福感に充たされますことを深く感謝しております。

「お前たちが同胞のために務めるのは、ただお前たちの神のために務めるのであることを悟らせるためである」とベンジャミン王は教えました。この尊いお仕事を通して同胞に奉仕することによって、主の栄光をこの国にもたすことに献身精進して行き度いと願致しております。

今 度翻訳事業部の東京ディストリビューションセンターの長に召された渡辺雅嗣伝道部長がソルトレークで教育を受けて帰って来られてから、着々とその陣容が固められ北海道から曾て札幌の名支部長として又地方部長会会員として活躍し、現に長老定員会の会長であった松下兄弟が永年の高校の英語の教職を離れて馳せ参じ、又既に一年余り翻訳を手伝っておられた東京東支部の才媛増田姉妹、本春めでたく青山学院英文科を優秀な成績で卒業された東京中央支部の可憐な小黑姉妹、南の方からは西宮の名支部長坂井兄弟

が群衆産業の要職を惜し気もなくふり捨て、又新進気鋭の秀才八木沼兄弟が共に手をたずさえて到着、ほんとうによき指導者の下に兄弟姉妹力を合せ助け合ってこの尊いお仕事を一日の喜びは、到底筆に表すことができません。尚北海道で目下ドクターコースをふんで居られる札幌支部長濁沼兄弟も現地でお手伝い下さることになっており、鬼先生の「偉名」を持つと云われる北海道英語教育界の重鎮福原兄弟も側面的に種々援助して下さることになっております。又坂井兄弟に代って新しく西宮支部長になられた沼野兄弟もこの仕事に召されておりますが、事情により現住所に在ってこの仕事にたずさわられます。

近く私たちは翻訳事業部後見役ブラウン副監督、ファイヤン全教会翻訳事業部長、クムズ太平洋地区担当マネジャーを迎えてセミナーを受け、間もなく新しい事業所に移って本格的に仕事を始めて行くことになっております。何とぞ全伝道部の兄弟姉妹お友だちの皆さまの絶大な御指導御鞭撻をよろしくお願いします。



松下 泰洋

私 は末日聖徒イエス・キリスト教会とこの完全なる福音を心から深く愛するものであります。1939年1月1日雪深き札幌の地に、主の御旨により生をうけて以来、私の試練と霊的経験の多くはことごとく寒さ厳しい真冬にやってまいりました。四才の時の父の死、七才の時イエスを初めて知ったこと、真の教会を知りバプテスマを受けたこと、厳しい現実として迫って来た大学入試の準備、永遠の伴侶との出逢い、最初の子供の誕生、支部長、副地方部長、長老定員会会長への召し、そして今日この全時間をもって翻訳事業につく任命など、すべてが厳しい冬の真最中に起った出来事であり、この季節に起る出来事は、私の人生にとって特別な意味を持っているように強く感ずるのであります。私は文字通りの「道産子」であり、その意味でも冬をただひたすらに愛するものであります。冬は冷く、厳しく、情け容赦なく私を試し鍛えました。けれどもそれはまた私にとって、やさしく、恵み深く、活気にみち、挑みかかって

くるもののようであり、神聖で栄光に輝くもののようにさえ思われるのであります。私は主がこの季節を通じて私を訓練され、祝福して下さいたことを心から感謝せずにはおられません。私はこの回復された福音により、私が何故、今日この地上にあるかを知り、折りにふれ感謝の涙を流すのを禁ずることができません。神と御子と聖霊が実に生きてましますことを証し致します。私はこの教会を知って13年いつも座右の銘として信じ愛してきたニーファイの証しを心から支持し皆さんに重ねて証しするものであります。「私は主が命じたもうたことを行っている。私は、主が命じたもうたことには、人がそれを為しとげるために前以ってある方法が備えてあり、それなくては、主は何の命令も人に下したまわらないことを承知しているからである」(ニーファイ第一書3:7)。

私 はこのたびの仕事にまことに適しくないう、能力ない器であることを知っております。しかし私は盲人であっても主が手引きをなさって下さるならどこへでも行けると信じて疑いません。私は今までもそうでありましたが、今ほど主のたまものと助けを必要としている時はないと感じております。どうぞ皆さんがお祈りなさる時に、私の弱さのためにも主に助けを求めて下さるなら私はもとより主御身もお喜びになられることと確信致します。これから私たちがする仕事はこの国のすべての人々のためになされる主の御業の一部であります。私にはこの仕事のために天の窓を開かれて主が、私たちがその導きと恵みを謙遜に願い求めて働らく時に、あふるる恵みをこの極東の人々のために降らさんと備えておられる姿がまぶたに浮んでまいります私は大管長会ならびに管理監督会がこの地に主の啓示を実現するためになされたお導きに対して心から敬意と感謝を捧げるものであります。また私たちの仕事の直接の指導者であるファイヤン、クムズ、渡辺雅の各兄弟に、また私の信仰の故郷であり、私を今日まで愛し育て下さった札幌の、あるいは北海道の兄弟姉妹に、またこの突然の召しのために快くお送り下さった職場の理解ある方々に、また特に愛と理解を持って今日の私をあらしめてくれた家族に対する、言葉に言い尽せぬ謝意と讃辞とのために、主がこれらの方々のために豊かな祝福をお与え下さるように、救い主イエス・キリストの御名によりひたすら祈りを捧げると共に、これらのことを証し申しあげます。



見よ 冬は過ぎ

雨もやんで、すでに去り

もろもろの花は地にあらわれ

鳥のさえずる時が来た

山ばとの声がわれわれの地に

聞こえる。

雅歌 2:11~12

支 部 所 在 地

北海道地方部

旭 川 旭川市8条5丁目 MIA集会所
電話 (0166-2-1545) 旭川公会堂
室 蘭 室蘭市幸町12-9
電話 (0143-2-7054)
小 樽 小樽市富岡町1-35
電話 (0134-2-8224)
札 幌 札幌市南20条西16丁目
電話 (0122-56-7175)

東中央地方部

福 島 福島市旭町4-15 旭荘アパート7
電話 (02452-3-3602)
群 馬 高崎市並榎町275
電話 (0273-22-7121)
甲 府 甲府市中央3丁目12-2
電話 (0552-3-2409)
松 本 松本市開智1-1-6
電話 (02634-3-8093)
新 潟 新潟市明石通3-40-1
仙 台 仙台市光禅寺通り28
電話 (0222-25-0897)
東 京 中 央 東京都港区北青山3-6-4
電話 (03-400-3307)
東 京 北 東京都中野区江原町1-8-14
電話 (03-953-8244)
東 京 東 東京都江戸川区西小岩5-8-6
電話 (03-658-7310)
東 京 南 東京都大田区南千束町2-25-11
電話 (03-729-6311)
東 京 西 東京都武蔵野市吉祥寺東町1-7-7
電話 (0422-22-9876)
山 形 山形市七日町4-12-23
電話 (02362-3-3380)
横 浜 横浜市港北区篠原町29
電話 (045-401-8772)

西中央地方部

阿 倍 野 大阪市阿倍野区阪南町中1-11-8
電話 (06-623-4315)
広 島 広島市高須2-7-29
電話 (0822-71-5309)
金 沢 金沢市兼六元町3-8
電話 (0762-21-2131)
京 都 京都市左京区下鴨松原町44
電話 (075-70-4067)
名 古 屋 名古屋市昭和区北山町3-41
電話 (052-731-4210)

名 古 屋 北 名古屋市昭和区北山町3-41
電話 (052-731-4210)
西 ノ 宮 兵庫県西ノ宮市仁川町4-54
電話 (0798-51-0141)
岡 町 大阪府豊中市岡町北2-18
電話 (068-52-1236)
岡 山 岡山市学南町1-13-11
電話 (0862-52-3560)
三 ノ 宮 神戸市灘区篠原本町4-35
電話 (078-86-2602)
高 松 香川県高松市末広町1-8
電話 (0878-51-4708)
柳 井 山口県柳井市今市391
電話 (106申込柳井) 7

九州地方部

福 岡 福岡市浄水町46
電話 (092-52-8653)
北 九 州 北九州市小倉区東和町 新井ビル403
電話 (093-55-4659)
熊 本 熊本市新屋敷町2-18-49
電話 (093-66-7656)
長 崎 長崎市片淵町1-1
電話 (0958-23-8949)

沖縄地方部

普 天 間 沖縄宜野湾市野嵩区 328
那 覇 沖縄那覇市崇元寺町1-128-20
電話 (3-1620)
建築部事務所 東京都港区北青山3-6-4
電話 (400-4080)

(誤りのある支部の支部長はご一報ください)

聖 徒 の 道

1968年3月20日発行
振替口座 東京16226番
発行人兼編集人 アドニー・Y・小松
発行所 東京都港区南麻布5-8-10
末日聖徒イエス・キリスト教会
電話 (473) 1613
印刷所 太陽印刷工業株式会社
定 価 70円
予 約 8月まで(申込は支部長まで)
電報受信略号 「トウキョウ」 マツジツ